

文部省・石垣市教育委員会指定
体力づくり推進校

平成2年度(2年次)

研究報告書

研究主題

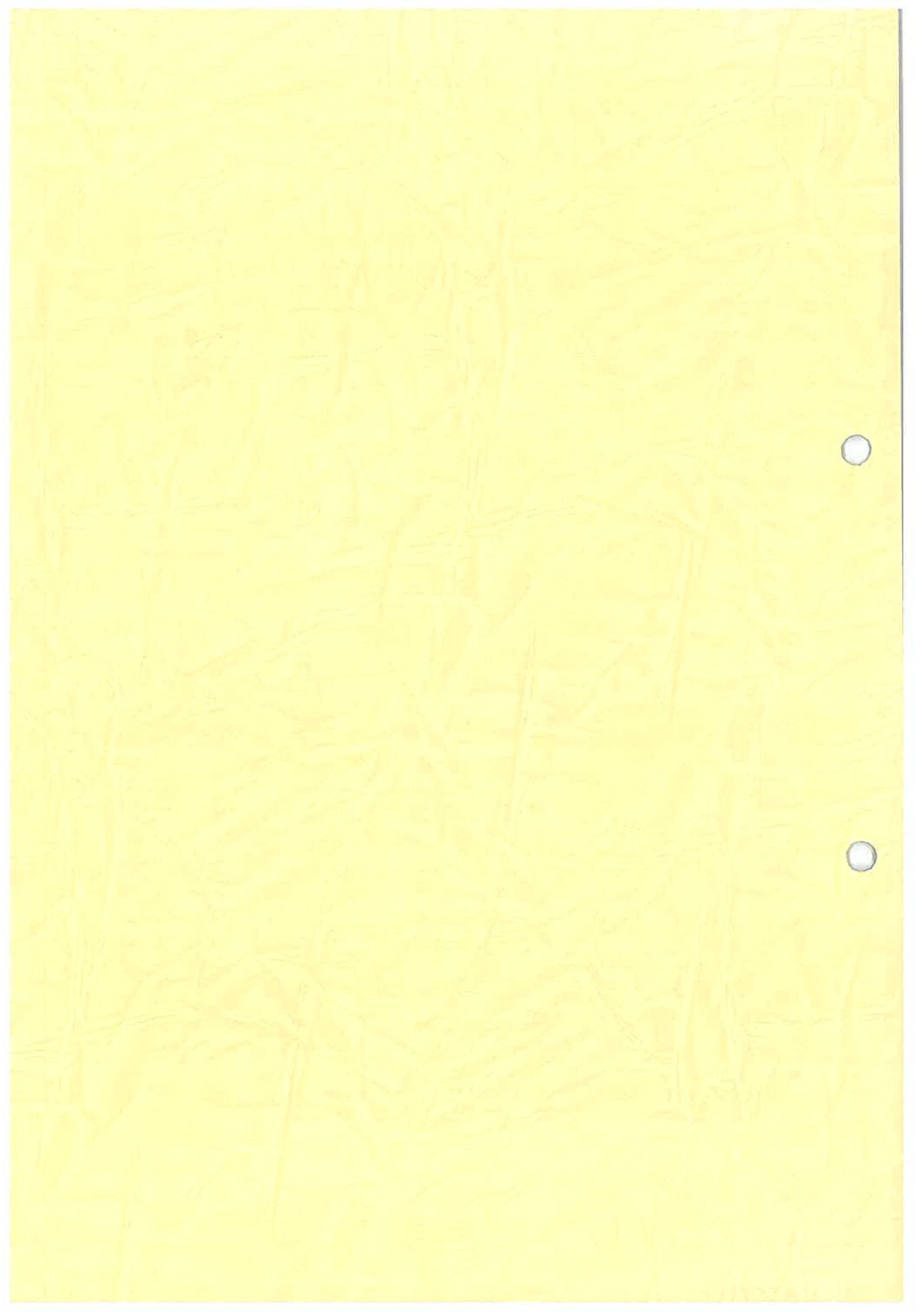
一人ひとりがめあてを持ち自ら取り組む
体力づくり

—授業の改善を通して—



平成2年12月7日

石垣市立大浜小学校



大浜小発第188号

平成2年 11月21日

殿

石垣市立大浜小学校
校長 前津 栄

ご案内

文部省・石垣市教育委員会指定体力づくり推進

研究発表会 (2年次)

なんとなく師走の気配が感じられるこの頃、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では、平成元年度より平成3年度までの3か年間、文部省・石垣市教育委員会より体力づくり推進校として指定を受け、「一人ひとりがめあてを持ち自ら取り組む体力づくり」を主題に研究を進めてまいりましたが、この度、第2年次の研究発表会を開催することになりました。

つきましては、時節柄何かとご多用のりではございますが貴職をはじめ多数の先生方の御参加をいただき、御指導ご助言を賜りたくご案内申し上げます。

言

研究主題

一人ひとりがめあてを持ち
自ら取り組む体力づくり

―― 授業の改善を通して ――

1. 期日 平成2年 12月7日(金)

2. 会場 大浜小学校、大浜公民館

3. 日程

13:30	14:00	14:45	15:00	15:45	16:15	16:30	16:45
受付	公開授業	会場 移動	研究発表	質疑応答	指導 助言	あいさつ	

4. 公開授業

学年	教 材	指 導 者
1年	サッカー遊び	徳山 明美
3年	ポートボール	大城 照美

5. 全体会
- | | | | |
|-------------|--------------|----|--------|
| (1) 開会のことば | 司会 | 教諭 | 平地 三千裕 |
| (2) 学校長あいさつ | | 教頭 | 波照間 永晃 |
| (3) 研究発表 | 司会 | 校長 | 前津 栄信 |
| ① 研究の経過と概要 | | 教諭 | 新本 タツミ |
| ② 指導研究部 | | 教諭 | 漢那 憲吉 |
| ③ 施設・設備部 | | 教諭 | 漢那 憲吉 |
| ④ 調査研究部 | | 教諭 | 平地 三千裕 |
| (4) 質疑応答 | | 教諭 | 与那国 久枝 |
| (5) 指導助言 | 八重山教育事務所指導主事 | 照屋 | 朝用 |
| (6) あいさつ | 八重山教育事務所長 | 島仲 | 義郎 |
| | 石垣市教育委員会教育長 | 仲本 | 英清 |
| (7) 閉会のことば | | 教頭 | 波照間 永晃 |

ごあいさつ

本校は平成元年度より平成3年度までの3年間、文部省並びに石垣市教育委員会より体力づくり推進校の指定を受け、研究に取り組んでいます。

第1年次は「一人ひとりがめあてを持ち、自ら取り組む体力づくり」一授業の改善を通して一を研究主題に掲げ、研究領域は「器械運動」領域にして理論研究と授業実践に努め、昨年12月11日に実践の様子を発表し、多くの先生方からの御指導をいただきました。

2年次の今年は、1年次の研究成果を踏まえつつ領域を「ボール運動」とし、研究に取り組んで参りました。

近年子供たちの体位は伸びているが、それに比して体力の低下が指摘されています。こうした事から子供たちの体力づくりの必要性が叫ばれ、各学校においても色々研究がなされております。

本校では子供たちの体力づくりのために、教科体育時間における指導法の改善工夫を図ると共に、休み時間等で子供たちが遊具に親しみ、積極的に自らの体力づくりに励むように環境を整備し、その活用を図るよう努めて参りました。

研究に取り組むほどに課題が次々と出、やるべきことが山積しています。

これまでの取組みはささやかではありますが、研究の成果を発表し、御参会の先生方の御指導、御助言を頂き、今後の研究に資したいとの考えで発表会を持つことに致しました。ご参会の皆様の忌憚のないご批評をおねがいします。

尚、これまで御指導頂きました教育事務所、石垣市教育委員会の指導主事の先生方、また学校職員の研究への取組みをバックアップして頂きましたPTAの皆様にも心から感謝申し上げましてあいさつと致します。

平成2年12月7日

石垣私立大浜小学校長 前津栄信

目 次

I 研究の概要	
1. 研究主題	1
2. 主題設定理由	1
3. 研究の進め方	2
(1) 研究方針	2
(2) 研究組織と運営	2
① 組織図	2
② 運営（各部の活動内容）	3
(3) 研究の構想図	4
(4) 研究計画（3年間の概要）	5
(5) 2年次の研究計画	6
(6) 研究経過	7
II 研究内容	
1. 指導研究部	
(1) 体力づくりの基本的な考えかた	8
(2) 新しい体育と体力づくり	10
(3) 本校の児童の実態	20
① 運動能力テスト	20
② 体力診断テスト	24
(4) 授業実践	
① 高学年（5年）	28
② “（6年）	41
③ 中学年（4年）	35
④ 低学年（2年）	50
2. 教科外体力づくり	
3. 施設・用具部	
(1) 体力づくりと施設・用具について	71
(2) 施設・用具の一覧表	73
4. 調査研究部	
(1) 体位、体力の統計	77
(2) 保健室からの児童の実態	86
III 研究のまとめ	
1. 研究のまとめ	88
2. 今後の課題	88

I 研究の概要

要冊の研究 I

1. 研究主題

一人ひとりがめあてを持ち、自ら取り組む体力づくり
— 授業の改善を通して（ボール運動） —

2. 主題設定理由

近年になって、子供たちの体位は急速に伸びてきた。それは、生活水準の向上や、学校体育の振興等、良い条件が揃ってきたからと思われ、その反面体力や、精神的面には悪い条件が目立っているようである。また、交通機関の発達にともない人々の活動範囲が広がったものの、運動が減少しつつあるといわれる。このような状況は都市から地方まで同じ条件になりつつあり、こうした現状の中で生き生きとして成長しつつある子供たちに今、必要なものは何かを考えると、体育指導の重要性が強く浮かび上がってくるのである。

本校の児童は明るく素直でスポーツが大好きであり、また地域にはスポーツ少年団が組織され、スポーツは大変活発である。にもかかわらず、最近の体力診断テストの資料を見ると、筋力、持久力、柔軟性など県の平均を下回っており、またきびきびした動作や粘り強さに欠け精神的な面での弱さも見られる。

こうした実態から、児童一人ひとりに自己の体力を認識させ自分に合った目標を持って楽しく活動し、運動への愛好的態度を育てる必要があると思料される。

そこで、本校の教育目標の一つである「健康でねばり強くがんばる子」を基本にし、その具体化に努め、運動の習慣化を図り、体力を高め、生涯体育へ連動させ運動の生活化を推進し、更に学力と体力の相関関係を探りつつ授業のよりよい改善を図り、その課題を解決すべく本主題を設定した。

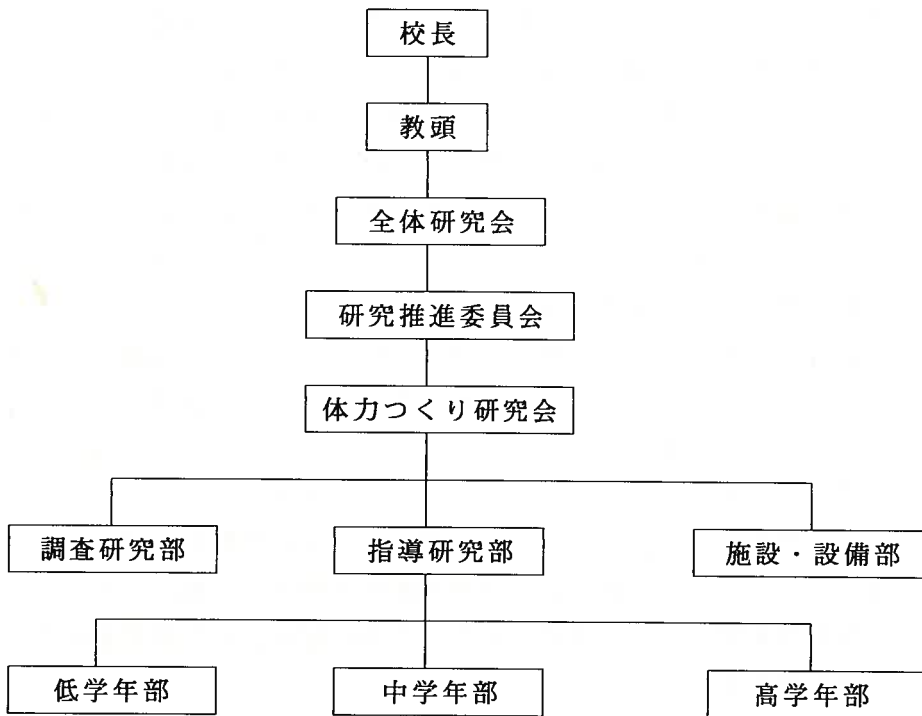
3. 研究の進め方

(1) 研究の方針

- ① 本校の教育目標を中核とし、「生涯体育」をめざした研究を推進する。
- ② 研修日は、学校経営計画に位置付け研究を進める。(第一・第三水曜)
- ③ 全体会、研究推進委員会、指導研究部会、施設・用具部会、調査研究部会、学年部会(低・中・高ブロック)を通して研究を進める。
- ④ 研究は原則として、勤務時間内で終われるようにする。
- ⑤ 研究の推進については、全職員の共通理解のもとに一致協力して取り組む。

(2) 研究組織と運営

①組織図



研究推進委員

(校長、教頭、教務主任、体育主任、各部部长)

②運営（各部の活動内容）

<p>全体 研究会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員参加による主題の設定、研究内容、方法等、研究の全体計画決定 ・理論研究、実践研究等、各研究武帝案の検討並びに決定 ・全職員共通理解による研究の深化 ・その他全体研究に関わる事項
-------------------	---

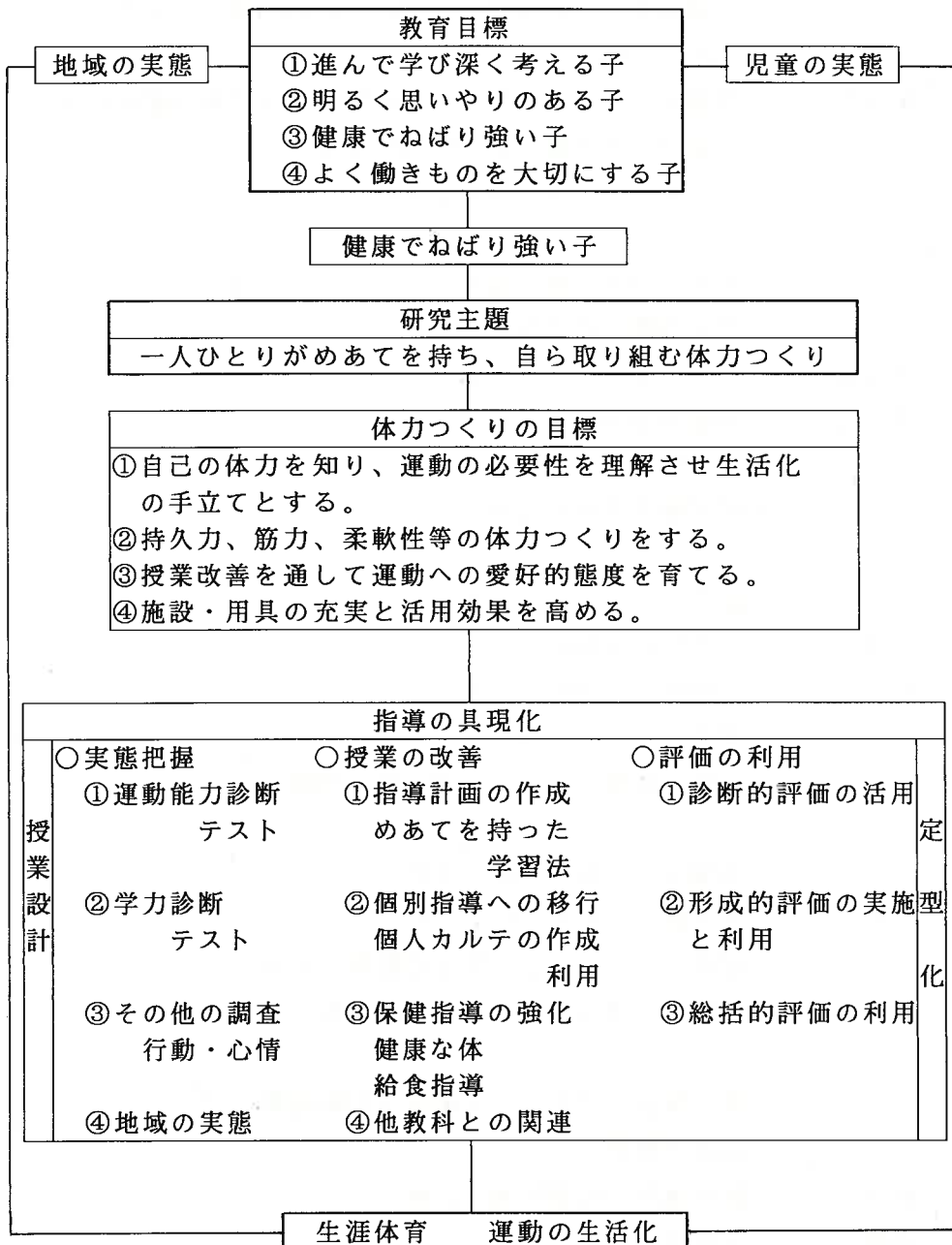
<p>研究推進 委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の全体計画の立案 ・全体研修会の企画 ・各部の研究進行等の調整 ・指導主事招請の計画 ・予算措置 ・研究報告書のまとめ
---------------------	---

<p>指導 研究部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりの理論研究 ・学習指導法の研究 ・実技研修の計画と実施 ・授業研究会の計画 ・家庭・地域社会への体力づくり奨励
-------------------	---

<p>調査 研究部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸調査の実施、分析、考察 ・運動能力テスト、体力診断テスト ・健康・安全・給食に関する調査・考察 ・家庭・地域の体力づくり意識調査
-------------------	---

<p>施設 設備部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具施設、グラウンド施設の全体構想 ・施設の管理 ・遊具施設の研究と利用計画 ・学習用具の開発 ・学校環境美化 ・備品、教具の工夫
-------------------	---

(3) 研究の構想図



(4) 研究計画

1年次

- ・ 研究主題の設定
- ・ 研究方針、研究計画の決定と組織づくり
- ・ 実態調査と個人カルテの作成
- ・ 体力と運動の理論研究
- ・ 授業実践と研究会
- ・ 年間指導計画の作成
- ・ 地域との連携による体力づくりの推進
- ・ 1年次のまとめと発表

2年次

- ・ 2年次の研究計画
- ・ 実態調査
- ・ 学習指導法の研究
- ・ 学習カード、個人カルテの活用
- ・ 授業実践と研究
- ・ 特別活動との関連の研究
- ・ 地域との連携による体力づくりの推進
- ・ 2年次のまとめと発表

3年次

- ・ 実態調査（スポーツテストの比較と考察）
- ・ 授業実践と研究会
- ・ 運動の生活化
- ・ 地域との連携による体力づくりの推進
- ・ 3年次のまとめと発表

(5) 2年次の研究計画

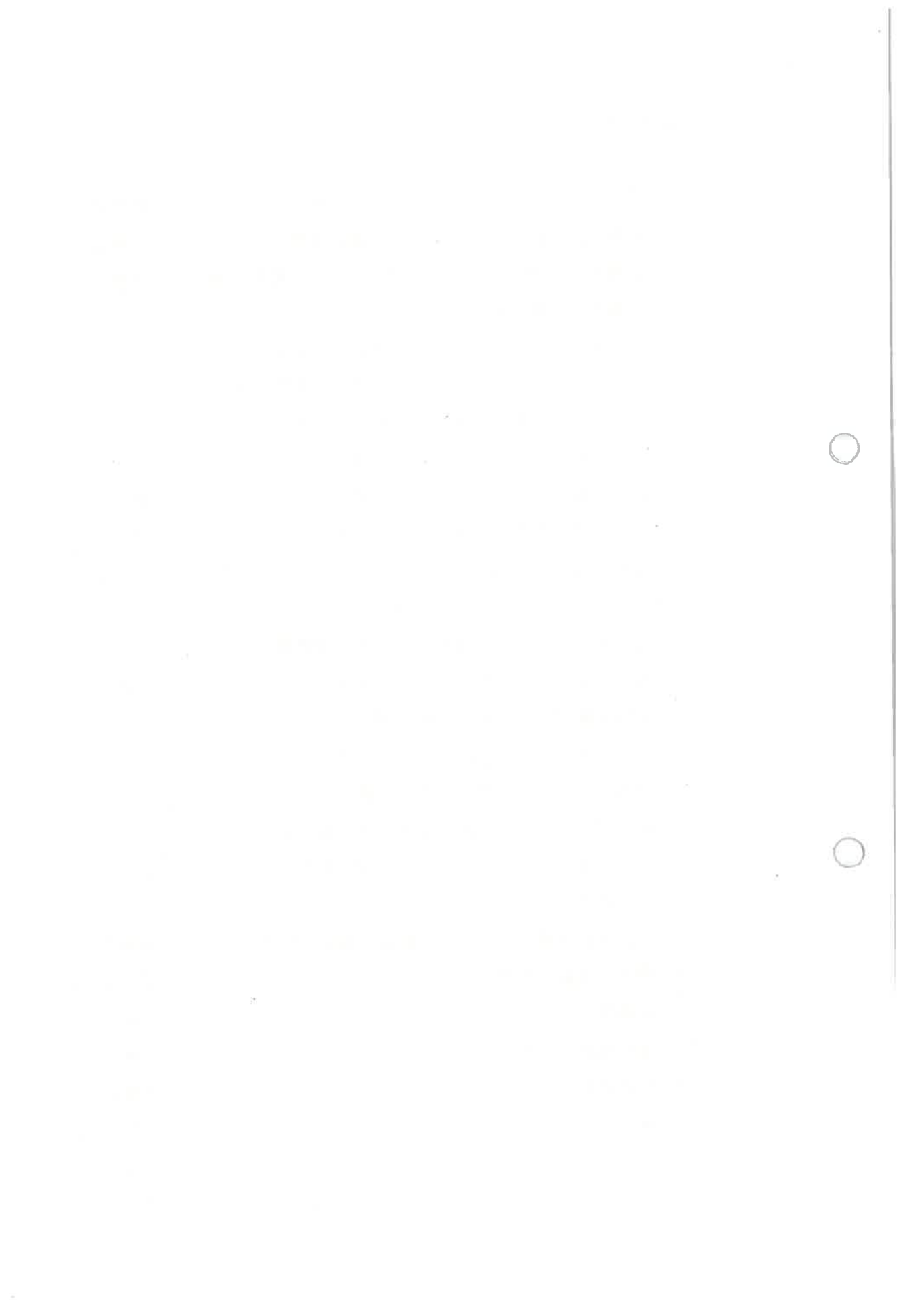
領域(ボール運動)

月	日	研究内容	
4	18	年間計画の検討、研究の進め方	全体会
5	2	各部会の年間計画の作成、業間遊び計画案・なわとび集会案の検討、体力診断テスト実施計画案について	全体会
	16	指導案検討(5年)理論研究会、実態調査について	全体会
	23	研究授業(5年)、授業研究会	全体会
6	6	理論研究(学習カード・学習資料の考え方、利用法)	全体会
	20	指導案検討(4年)理論研究	全体会
7	4	研究授業(4年)、授業研究会	全体会
	11	実態調査まとめ、各部会1学期のまとめ	全体会
9	5	指導案検討会(6年)、理論研究	全体会
	19	研究授業(6年)、授業研究会、3年指導案検討	全体会
10	3	研究授業(3年)、授業研究会、1年指導案検討	全体会
	17	研究授業(1年)、授業研究会、2年指導案検討	全体会
	24	研究授業(2年)、授業研究会、研究報告書のまとめ	全体会
11	7	研究発表について、各部の原稿作成	部会
	14	原稿作成(各部)	部会
	21	原稿読み合わせ、修正	全体会
12	5	製本	
	7	研究発表会	

- 1, 業間運動の取組み(週2回全児童が運動場で体力遊びができるようにする。)
- 2, 部会が少ないので月1回月曜日で委員会の無い日の6校時を当てる。
- 3, 研究授業は各学年1回行う。
- 4, 公開授業学年(5年、2年)

(6) 研究経過

月	日	研 究 内 容	持ち方
4	18	組織と運営について、2年次の計画案検討	全体会
5	2	業間遊び計画について、スポーツテスト実施計画 各部会の活動計画について	全体会
	16	指導案検討会（5年）技能のめやすの考え方	全体会
	23	研究授業（5年）照屋指導主事に指導助言を頂く 新しい体育の考え方、めやすの考え方	全体会
6	6	理論研究（学習カード、学習資料の考え方）	全体会
	20	指導案検討会（4年）ねらいとめあてについて	全体会
7	4	研究授業（4年）めあての立てさせ方について	全体会
	11	実態調査のまとめ	部 会
9	5	指導案検討会（6年）資料の活用について	全体会
	10	指導案修正 実態調査のまとめ（調査部）	部 会
	19	研究授業（6年）ねらいのとらえ方について	全体会
10	7	指導案検討会（2年）準備運動の考え方 学習カードの検討、技能の評価について	全体会
	15	学習カードの作成、 教具や施設の工夫について	部 会
	24	研究授業（2年）技能的なめやすの考え方	全体会
	29	学習資料について、アンケート調査について	部 会
11	5	原稿作成	部会
	7	発表会の日程について、当日の日程について	全体会
	14	報告書原稿まとめ	部 会
	19	原稿修正	全体会
	21	報告書読み合わせ、	全体会
12	5	発表会打合せ	全体会
	7	研究発表会	全体会



Ⅱ 研究内容

1. 指導研究部

容内突册 II

陪突册尊册 . 1

研究内容

(1) 体力づくりの基本的な考えかた

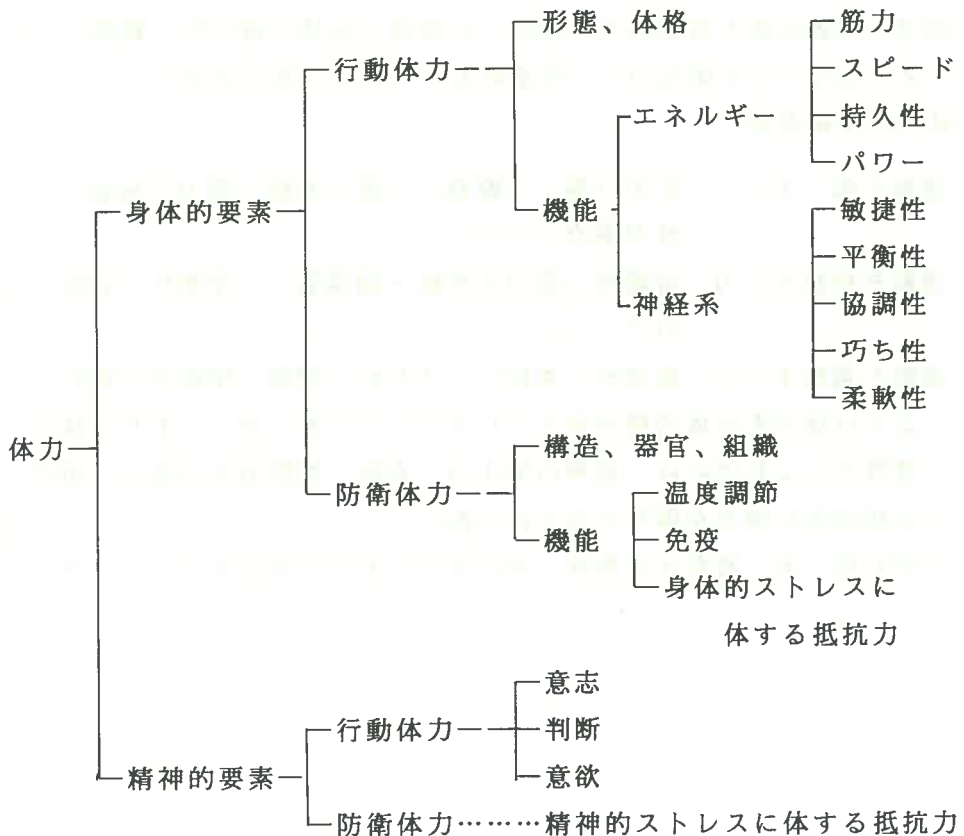
① 体力のとらえ方

「体力とは人間の存在と活動の基礎をなす身体的、及び精神的能力である。」(猪飼)といているように体力は、身体的能力の活動の源であり、今日の人間社会で活動していくための最も基本的な行動力と考える。

行動体力とは、積極的に外部に働きかける能力であり、身体的なものとしては筋力、持久力等があり、精神的なものとしては判断し計画する能力が考えられる。

防衛体力とは、外部からの抵抗を受け止め、これにうちひしがれないようにする能力である。

上記の考えにたつて本校でも体力を一般に用いられている行動体力と防衛体力とにわけて下記のように考えることにした。



体力の構造を前記のようにとらえるとすれば、体力づくりは、大きく身体的要素と精神的要素とを踏まえての人間育成であり、両者の水準を高めていくことである。

身体的要素（行動体力の）一面の機能が優れていると、体力が優れているととらえることは体力の一面の把握にほかならないのであって精神面や防衛面を無視した体力は真の体力とはいえないのである。

体育の目標としての体力は当然両者を含むものであるが、直接的、具体的には活動能力を高めることを中心として、それとの関連において精神力抵抗力を高めることをねらいとする。また、保健の立場からは、抵抗力を高めることを中心とし、それとの関連において活動能力を高めることをねらいとしている。

特別活動においては、児童の自主的、主体的な行動を通して、身体的並びに精神的要素を高めようとするものである。

今日、活動能力の狭い意味での体力ととらえることが常識的になっているので、狭義の体力の要因を 運動 に関係する体の器官や、機能にしてとらえておくことも体力づくりを進める上で大切であると思う。

②体力の基礎要因

運動を起こす力	筋力（筋）、瞬発力（筋と神経、筋力と敏捷性が融合した力）
---------	------------------------------

運動を持続する力	持続性（筋力と呼吸・循環器）、平衡性（神経、バランス）
----------	-----------------------------

運動を調整する力	敏捷性（神経）、巧ち性（関節、関節の可能性）
----------	------------------------

以上は体力を身体的側面からとらえたものであるが、これらの体力が発揮されるためには、精神の集中力、忍耐、判断力及び責任、協力など精神的な働きが関与するものである。

（松田岩男 東京教育大学教授 体育学習における体力トレーニング）

(2) 新しい体育と体力づくり

生涯学習が叫ばれている今日、「自ら学ぶ」という自主、主体的な学習のあり方が強調されている。生涯体育においても、スポーツに親しみ生活の一部としてスポーツに取り入れ、自己の生活を充実させることが重要な課題となっている。こうした課題を持って学校体育の中での体力づくりを次のように考える。

① 体力づくりと運動技能

体力づくりとは人間活動の基礎となる身体的能力であり、各自の運動を行う能力、技術であるといえる。

体力を高める直接のねらいを持つ運動領域は体操である。運動技能を高める領域としては器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動である。

小学校においては、それらの学習を意図的計画的に行うことにより体力が高められると考える。体力は、運動技能を習熟させるための体力という狭義なとらえ方ではなく、より広い意味で生涯にわたって生活を支える基盤となる体力と考えて指導することが望ましいと思われる。そこで一般的には体力を高めれば運動技能も高まり、運動技能を高めることによって体力が養われるという循環作用としてとらえることができる。

② 新しい体育の考え方

そこで運動技能を高めるにはどのようにすればよいかということになると、学校期に運動への愛好的態度を作っておくことが望まれる。また、このような愛好的態度を持つということは、運動への自発的、自主的な態度の形成につながるものといえよう。

「新しい体育」では、人間と運動を根源的に結び付ける機能的特性を目的・内容とした学習を基本としている。

つまり、「新しい体育」は運動の本質的な魅力や意味に触れ、それを深めていくことを学習の中核にしている運動目的・内容論に立った体育といえる。

また、「新しい体育」は、一般社会における運動への参加が楽しさ欲求にせよ、体の必要充足にせよ、人々の関心や技能のレベルに応じて活動を行っているという事実を踏まえて、子供たち一人一人の欲求や必要なレベルにあった運動の選択を行ったり、あるいは、学習のねらいや学習の道筋（学習過程）を導く個別化、個性化につながる体育でもある。

このような運動の本質的な魅力や意味を学習のねらい、内容とし、更にはその学習過程を学習者状況にあわせて作っていく「新しい体育」は生涯的な運動への愛好的態度と運動への自発的・自主的な態度の個別的形成を可能にするものといえよう。

このように運動にたいする愛好的態度を培うことにより、運動技能が高まり、運動技能が高まればその循環作用として体力も高まるものとする。

そこで「新しい体育」の考えに基づき子供たちに運動への愛好的態度を育てることにより体力づくりを進めていこうと考えた。

なお、体育の目標としての体力は、体力の要因の発達上の特性を考慮して決めることが大切である。すなわち、調整力の発達と筋力や持久性の発達を比較すると調整力の発達が最も早く、総じて、小学校の時期に著しく発達するとされ、筋力、持久力がこれに次ぐとされている。

このように、それぞれの能力は、発達に適した時期があるので、体育の目標としての体力の要因の発達上の特性を考慮して定めることが大切である。

以下に体力の基礎要因となるものの説明を加える。

ア、筋力

筋が収縮することによって生じる力が筋力であり、すべての運動は筋力であり、すべての運動は筋力によって行われる。筋力は握力・背筋などで測定される一時的な最大筋力と用いられる筋群に負荷のかかった状態で如何に長時間作業を続けることができるかという持久筋力（筋持久力）に分けられる（持久筋力は広義の持久力に含められることが多い）
イ、瞬発力（パワー）

パワーという語は物理学用語であり、単位時間当りの仕事量として定義されるが、体育では瞬発力と同じ意味で用いられ、瞬発的に大きな力をだして運動を起こす能力を意味する。

ウ、持久力

持久力は筋の持久力と呼吸・循環器能の持久力に大別される。呼吸・循環器能の持久力は、全身的な運動を長時間継続して行う能力を指す。

エ、調整力（協応性）

調整力とは、身体の二つ以上の部位の運動を一つのまとまった運動に融合したり身体の内・外からの刺激に対応して運動する能力を指す。

オ、平衡性

身体の姿勢を保つ能力を平衡性といい、平衡性の維持は姿勢反射によってなされる。平衡性は、歩いたり、跳んだりする運動の中での姿勢の安定性を意味する動的平衡性と静止した状態での安定性を意味する静的平衡性とが区別される。

カ、敏捷性

身体をすばやく動かして方向を転換したり、刺激にたいして反応したりする能力を敏捷性といい、反応速度や動作の反復速度が含まれる。

キ、柔軟性

柔軟性とは、身体をいろいろな方向に曲げたり伸ばしたりする能力で、主として関節部分の構造・靭帯・筋膜の弾性、筋の進展性によって決定される。柔軟性が優れていると、運動をスムーズに、大きく、美しく行うことができる。

ク、巧ち性

巧ち性とは、身体を目的に合わせて正確に素早く、滑らかに動かす能力であり、いわゆる器用さ、巧みさのことをいう。

③運動の特性と運動の分類

「新しい体育」を学習する場合には、運動種目の特性を明確にとらえてどんな欲求と充足を必要としているかを考えておくことが大切である。

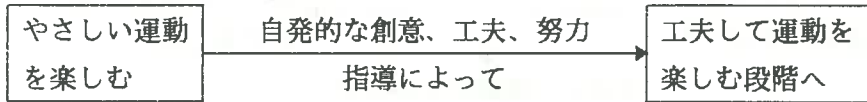
運動は行う者のどの様な欲求、あるいは必要を充たし、魅力を持っているかは種目によって違うが、それぞれの運動が持っている一般的な欲求、必要充足、機能、魅力を「運動の一般的特性」という。

種目の一般的特性を導くために、どんな欲求や必要を充足する機能を持っているのかという視点から運動の分類を考えると下記のようなになる。

1. 欲求を充足するために工夫されている運動			
スポーツ	競争型	他人へ挑戦し、勝ち負けを競いあうことが楽しい運動（個人対個人、集団対集団）	ボール運動 陸上、水泳
挑戦の欲求に基づくもの	競争型	自然や人工的に作られた物的障害へ挑戦し、それを克服することが楽しい運動。	器械運動 水泳
	達成型	記録やフォーム等の観念的に定めた基準に挑戦し、それを達成することが楽しい運動。	陸上、水泳 器械
表現ダンス	リズム型	リズムを手がかりにし、それに対応し、自由に動くことで変身することが楽しい運動。	リズムダンス、ロック
変身の欲求に基づくもの	社交型	構成されているリズムカルな動きで変身し相手と対応することが楽しい運動	フォークダンス 社交ダンス
	バレエ型	構成されたリズムカルな動きで変身し、イメージ・対象を模倣表現することが楽しい運動	バレエ 民族舞踊
	創作型	リズムカルな動きを自由に工夫し、イメージ対象を模倣・表現することが楽しい運動	モダンダンス等
2. 必要を充足するために工夫される運動			
体に必要とされる種類に応じて分類されるもの			

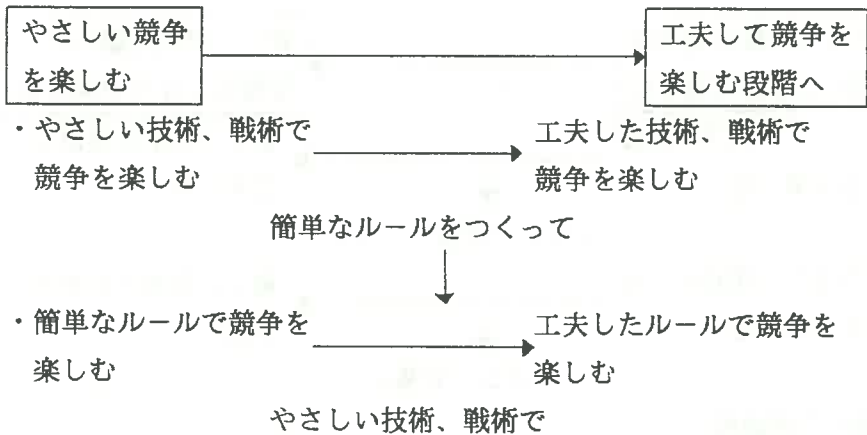
④ 楽しい体育の学習過程

「やさしい運動」とは、それぞれの能力の応じて現在楽しく行なえるレベルのものであり「工夫した運動」は自発的な相違・工夫・努力によって高まった能力のレベルに対応する挑戦のレベルにあるもので、次ぎのように発展させるよう進める。

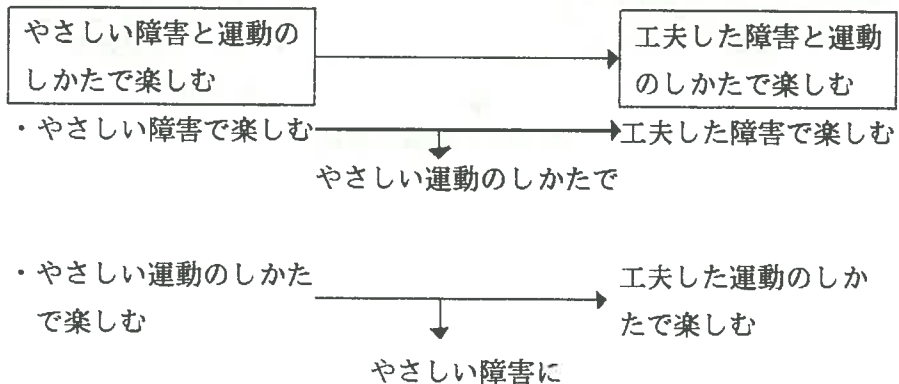


運動学習の発展の過程を次ぎのように考えて進める。

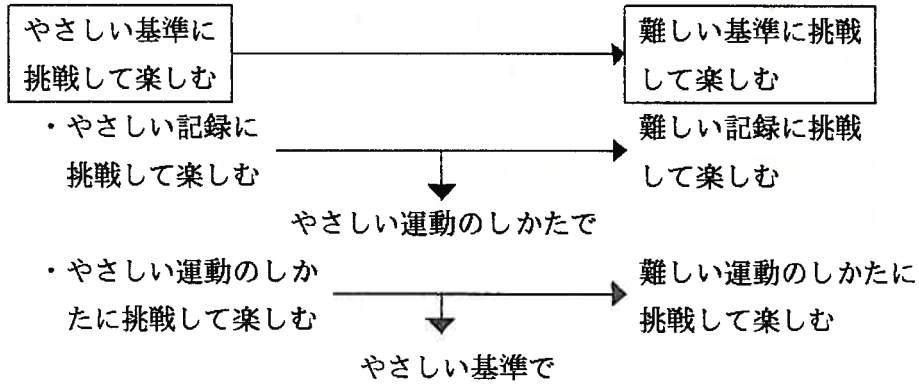
ア 競争型の学習過程（ゲーム）



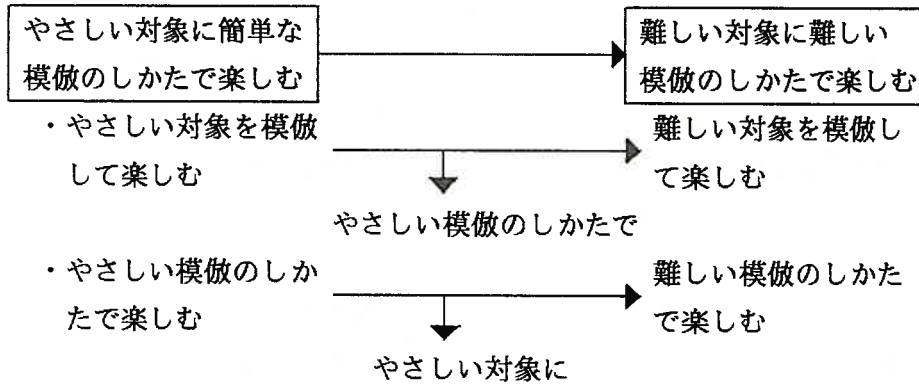
イ 克服型の学習過程（とび箱、鉄棒）



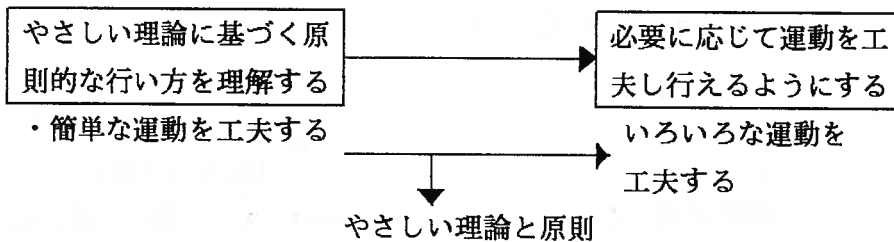
ウ 達成型の学習過程



エ 模倣・変身型の学習過程



オ 体操の学習過程



⑤ 単元計画の形式例

- 1, 運動の特性…………… 種目の欲求あるいは必要を充足する機能を中心にとらえ、行う者にとっての種目の意味と価値、基礎的な行い方を明らかにし、具体的な学習のねらいと内容・経験を導き出す手がかりにする。
 - (1) 一般的特性…………… 行う者にとっての種目の一般的な魅力（機能的特性）を中心に特性と基礎的な特性の求め方、触れ方を明らかにする。
 - (2) 子供から見…………… 意欲や能力、経験等に個人差のある児童の実態を踏まえて、学習する児童にとって、どこが楽しくどこがつまらなく（魅力）、どんな楽しみ方ができる運動か等を明らかにする。
 - (3) 授業に対する
基本的な考え…………… 運動の特性や児童の実態を踏まえて、指導者がこの種目に対してどのように捕らえ、どのように授業を進めていこうとしているのかを明らかにする。
- 2, 学習のねらい…………… 運動の特性を踏まえて、どの児童も特性を求められるねらいと、特性に触れながら、学習が発展する流れを示す。
 - (1) 学習のねらい…………… すべての児童が、何を求め、何を考え工夫してどんな活動をすれば良いかを示す。
 - (2) 学習の道筋…………… ねらいを分けし、自発的・自主的な学習が深まり、広がる段階を示す。
 - ねらい1…………… 今の力を十分に発揮して、特性に触れられるねらいを示す。
 - ねらい2…………… 高まった力で工夫を加えたり、新しい課題に挑戦するねらいを示す。
- 3, 時間配分と…………… 各段階に時間の配分を予定し必要な施設・用具施設・用具…………… を示す。
- 4, 学習と指導…………… 学習のねらいと道筋を具体的な活動の展開に予定し、示す。

⑥指導案形式例

学習と指導

(本時の指導案には、本時のねらいを明記する。)

	学習のねらいと指導	指 導
はじめ ○分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいと道筋。 ○学習の進め方がわかる。 ○グループや活動の場を知る。 ○学習の決まりや約束を作る。 ○何をねらいとし、どんな運動を誰と、どこで行うかがわかる。 	施設 ・ 用具 <ul style="list-style-type: none"> ○学習に必要な施設・ ○用具等
な か 1 ○分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ねらい1</div> 学習の進め方 ねらい1の活動 例 (ボールゲーム) リーグ戦 ○めあて例 ○試しのゲームをする。 ○チームで練習する。 ○対戦相手を変えてゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を進めていく上で指導すべき点や観察する点など ○力に応じたねらいか。 ○自発的・自主的な活動か。 ○仲良く協力しているか
な か 2 ○分 ま と め ○分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ねらい2</div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方 ○ねらい2の活動をする。 対抗戦 ○ゲーム1をする。 ○作戦を工夫する。 ○ゲーム2をする。 ○学習の反省と記録、学習カードの整理。 ○楽しかったこと、楽しくなかったこと、上手になったこと、できなかったこと、改めたいこと、次にしたいことなどをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を進めていく上で指導すべき点や観察する点など ○力に応じたねらいか。 ○仲良く協力しているか ○話し合いができているか。 ○作戦が生かされているか。 ○どこにつまづいているか。 ○ねらいから学習を反省させる。 ○共通の問題を考えさせる。

⑦めあて（学習課題）

「めあて」とは、1時間1時間の学習の中で、学習のねらいに迫るためにチームまたは個人がこの時間でやろうとする学習課題のことである。

（ア）めあて（学習課題）の必要性

子供たちは運動を行っていく中で、「自分はこうしたい」、「これができるようになりたい」など多くの欲求を持っている。こうした欲求が満たされるとき学習は次から次へとつながり、自ら積極的に学習に取り組むようになる。

しかし、児童は心理的にも技能的にも個人差があるので、個やチームに応じた「めあて」（学習課題）を持たせることによって、学習に意欲的に取り組むのではないか。こうした児童の欲求を実現するために「この時間何をするのか」というめあて（学習課題）を持たせることが大切である。

（イ）めあて（学習課題）の持たせ方

- 学習のねらいに迫るようにさせる。
- あらかじめ教師がいくつか例を示し、その中から選択させる。
- 態度的な課題から技能的な課題へと移行させる。
- 態度的な課題は1単元を通して変わることが少ないので、常にその課題を意識させる。
- 技能的な課題はその時間ごとに決めさせる。
- 学習カードをもとに立てさせる。
- 児童ができそうな課題を見つけさせる。
- 友達同士互いに意見を出させ、その中から見つけさせる。

⑧学習カード。学習資料

(ア) 学習カード

学習カードは、児童が学習を進めていく中でその時間の学習の記録をし、反省や話し合い活動の基になるものである。また、今できることや、これから頑張れば出来そうなことを記入し、学習課題を設定するためのものであるから、学習カードは体育の学習を進めていく上で最も大切なものである。

(イ) 学習資料

児童が学習をしていく中で、どのような練習方法や、どのような技があるのかを知り自ら意欲的な活動ができるよう提示し、また、めあて（学習課題）を立てるときの参考ともなる資料である

(ウ) 学習カード作成上の留意点

- 児童の発達段階・実態にふさわしいもの。
- 運動の内容・方法がわかりやすいもの。
- 現在の力が把握できるもの。
- 進歩の度合いがわかるもの。
- めあてを決めたり考えたりできるもの。
- 教師の助言が書けるもの。
- 短時間に記入できるもの。
- 評価の資料として役立つもの。

児童が授業の中で「楽しい」、「自分にもできると」という気持ちになり、学習意欲がわくように上記のような点に留意し、学習カードを作成することが大切である。

(エ) 学習資料の作成上の留意点

- 児童が見やすく理解しやすいもの
- 場所に応じて大きさを工夫する。
- 内容によって児童数分をつくる。
- 助言の言葉をいれる。

(3) 本校の児童の実態 (県、1988年度、全国1987年度資料)

① 運動能力テスト

1年

種 目			本 校	県	全 国	県との比較	全国との比較
50m走 (秒)	男	昨年	12.3	11.5	11.0	-	-
		本年	11.8			-	-
	女	昨年	12.6	12.0	11.3	-	-
		本年	12.4			-	-
立ち幅跳 (cm)	男	昨年	130	119.4	126.5	+	+
		本年	123			+	-
	女	昨年	113	110.2	116.5	+	-
		本年	119			+	+
ソフトボ ールなげ(m)	男	昨年	11	10.7	10.8	+	+
		本年	10			-	-
	女	昨年	5.9	6.4	6.7	-	-
		本年	6.6			+	-
飛び越し くぐり (秒)	男	昨年	14.1	14.4	14.4	+	+
		本年	15.9			-	-
	女	昨年	17.9	15.6	15.4	-	-
		本年	16.6			-	-
持ち運び走 (秒)	男	昨年	17.8	15.7	15.9	-	-
		本年	16.4			-	-
	女	昨年	19.7	16.5	16.5	-	-
		本年	16.8			-	-

2年

種 目			本 校	県	全 国	県との比較	全国との比較
50m走 (秒)	男	昨年	11.6	10.7	10.2	-	-
		本年	10.8			-	-
	女	昨年	12.2	10.9	10.5	-	-
		本年	11.1			-	-
立ち幅跳 (cm)	男	昨年	110	132.8	138.4	-	-
		本年	133			+	-
	女	昨年	108	123.8	129.8	-	-
		本年	133			+	+
ソフトボ ールなげ(m)	男	昨年	14.8	15.0	14.9	-	-
		本年	12.4			-	-
	女	昨年	9	8.4	8.9	+	+
		本年	6.6			-	-
飛び越し くぐり (秒)	男	昨年	15.4	13.0	12.7	-	-
		本年	12.5			+	+
	女	昨年	16.7	13.9	13.6	-	-
		本年	12.9			+	+
持ち運び走 (秒)	男	昨年	14.6	14.7	14.8	+	+
		本年	15.0			-	-
	女	昨年	15.4	15.5	15.4	+	+
		本年	13.8			+	+

3年

種	目		本 校	県	全 国	県との比較	全国との比較
50m走 (秒)	男	昨年	10.5	10.2	9.7	-	-
		本年	10.4			-	-
	女	昨年	10.4	10.5	10.0	+	-
		本年	10.3			-	-
立ち幅跳 (cm)	男	昨年	131	143.2	149.4	-	-
		本年	140			-	-
	女	昨年	133	133.8	141.5	-	-
		本年	130.6			-	-
ソフトボ- ルなげ(m)	男	昨年	14.3	19.3	19.6	-	-
		本年	18.4			-	-
	女	昨年	8.3	10.6	11.1	-	-
		本年	11.4			-	+
飛び越し くぐり (秒)	男	昨年	13.3	11.8	11.8	-	-
		本年	12.2			-	-
	女	昨年	14.3	12.5	12.8	-	-
		本年	14.1			-	-
持ち運び走 (秒)	男	昨年	13.6	14.2	14.1	+	+
		本年	14.6			-	-
	女	昨年	15.1	14.9	14.9	-	-
		本年	15.1			-	-

4年

種	目		本 校	県	全 国	県との比較	全国との比較
50m走 (秒)	男	昨年	10.1	9.8	9.3	-	-
		本年	9.8			±	-
	女	昨年	10.7	10.0	9.6	-	-
		本年	10.5			-	-
立ち幅跳 (cm)	男	昨年	152	150.8	158.4	+	-
		本年	160			+	+
	女	昨年	136	142.8	151.0	-	-
		本年	152			+	+
ソフトボ- ルなげ(m)	男	昨年	25	22.9	24.1	+	+
		本年	25			+	+
	女	昨年	15	12.9	13.8	+	+
		本年	14.5			+	+
飛び越し くぐり (秒)	男	昨年	12.7	11.2	11.2	-	-
		本年	12.2			-	-
	女	昨年	14.4	11.8	12.0	-	-
		本年	12.2			-	-
持ち運び走 (秒)	男	昨年	14.7	13.6	13.6	-	-
		本年	14.0			-	-
	女	昨年	15.8	14.3	14.3	-	-
		本年	14.8			-	-

5年

種 目			本 校	県	全 国	県との比較	全国との比較
50m走 (秒)	男	昨年	9.6			-	-
		本年	9.2	9.3	9.0	+	-
	女	昨年	10.1			-	-
		本年	9.8	9.5	9.2	-	-
走り巾跳 (cm)	男	昨年	272			-	-
		本年	278.9	284.9	301.8	-	-
	女	昨年	262.5			+	-
		本年	222.3	256.0	273.4	-	-
ソフトボ- ルなげ(m)	男	昨年	28			+	-
		本年	29.1	27.7	28.2	+	+
	女	昨年	17			+	-
		本年	18.2	16.0	16.5	+	+
けん垂 (回)	男	昨年	28			+	-
		本年	31.3	27.1	28.4	+	+
	女	昨年	27			+	-
		本年	25.9	22.6	26.1	+	-
ジグザグ ドリブル (秒)	男	昨年	16.5			+	+
		本年	16.8	18.6	18.3	+	+
	女	昨年	17.7			+	+
		本年	20.5	20.3	19.7	-	-
連続さか 上がり (回)	男	昨年	3			+	-
		本年	2.5	2.6	4.2	-	-
	女	昨年	0.7			-	-
		本年	1.7	1.9	4.4	-	-

6年

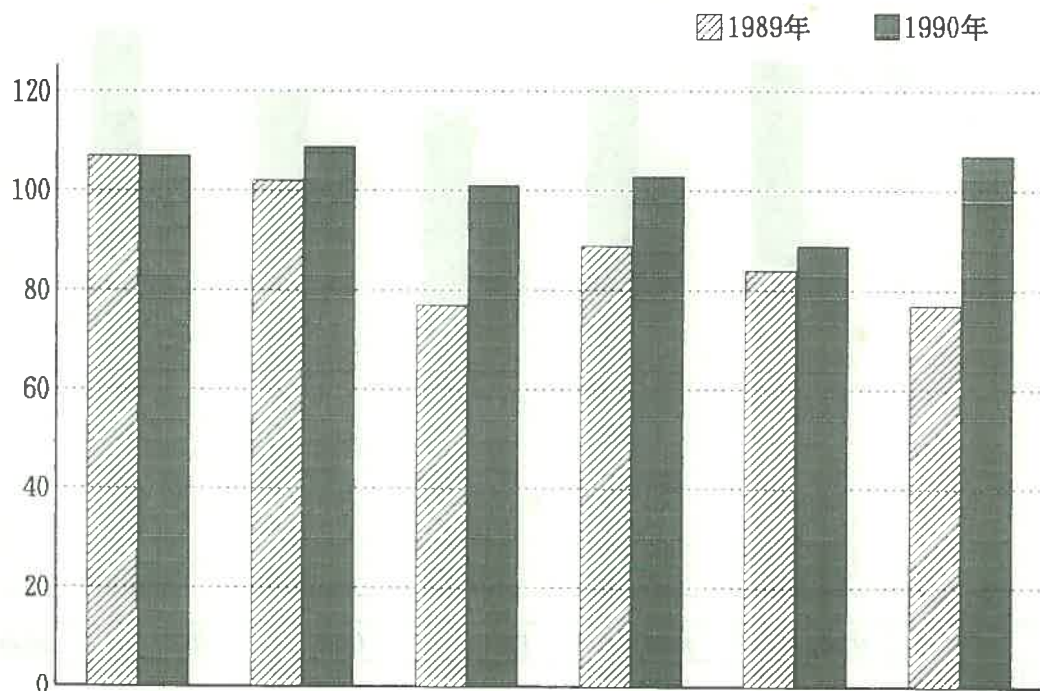
種目		本校	県	全国	県との比較	全国との比較
50m走 (秒)	男	昨年	8.9	9.2	8.6	+
		本年	9.7			-
	女	昨年	9.3	9.2	8.9	-
		本年	10.2			-
走り巾跳 (cm)	男	昨年	309	304.2	323.5	+
		本年	313			+
	女	昨年	265	271.0	293.7	-
		本年	275			+
ソフトボ- ル投げ(回)	男	昨年	31.9	32.6	32.9	+
		本年	32.8			+
	女	昨年	22.3	18.3	19.0	+
		本年	16.8			-
けん垂 (回)	男	昨年	18.8	31.8	30.5	-
		本年	43.0			+
	女	昨年	13.6	23.4	24.1	-
		本年	24			+
ジグザグ ドリブル (秒)	男	昨年	16.9	17.3	16.6	+
		本年	17.9			-
	女	昨年	19.5	19.1	17.9	-
		本年	22.2			-
連続さか 上がり (回)	男	昨年	2.9	2.7	4.5	+
		本年	4.0			+
	女	昨年	1.5	2.1	4.3	-
		本年	1.0			-

② 体力診断テスト

体力診断テストの比較（10才男子）

性別		男 子						
年齢	種目	反復横 とび(回)	垂直とび (cm)	握 力 (kg)	伏臥上体 そらし(cm)	立位体 前屈(cm)	踏み台 昇降運動(指数)	
10 才	全 国	39.3	33.9	17.8	45.1	6.8	69.3	
	県	36.8	34.2	17.7	44.8	6.4	68.6	
	本 校	昨年	41.0	36.0	14.7	40.0	6.6	55.8
		本年	42.2	37.2	18.1	46.3	6.1	74.2

全国を100としたときの本校の実態
10才男子

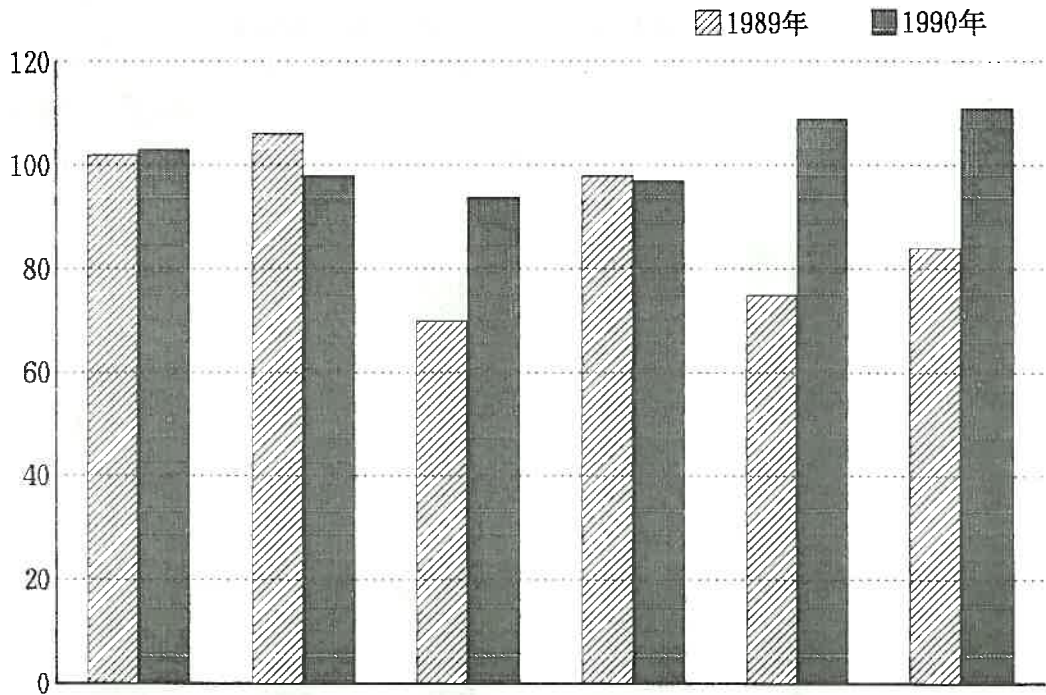


	反復横飛び	垂直飛び	握 力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降
1989年	107	102	77	89	84	77
1990年	107	109	101	103	89	107

体力診断テストの比較(10才女子)

性別		女子						
年齢	地域	種目	反復横 とび(回)	垂直とび (cm)	握力 (kg)	伏臥上体 そらし(cm)	立位体 前屈(cm)	踏み台 昇降運動(指数)
10才	全国		38.3	32.8	16.7	46.9	7.9	66.9
	県		36.3	32.6	16.5	46.1	10.0	64.8
	本校	昨年	39.0	36.0	11.8	46.4	7.9	57.1
		本年	39.6	32.1	15.7	45.3	8.6	74.3

全国を100としたときの本校の実態
10才女子

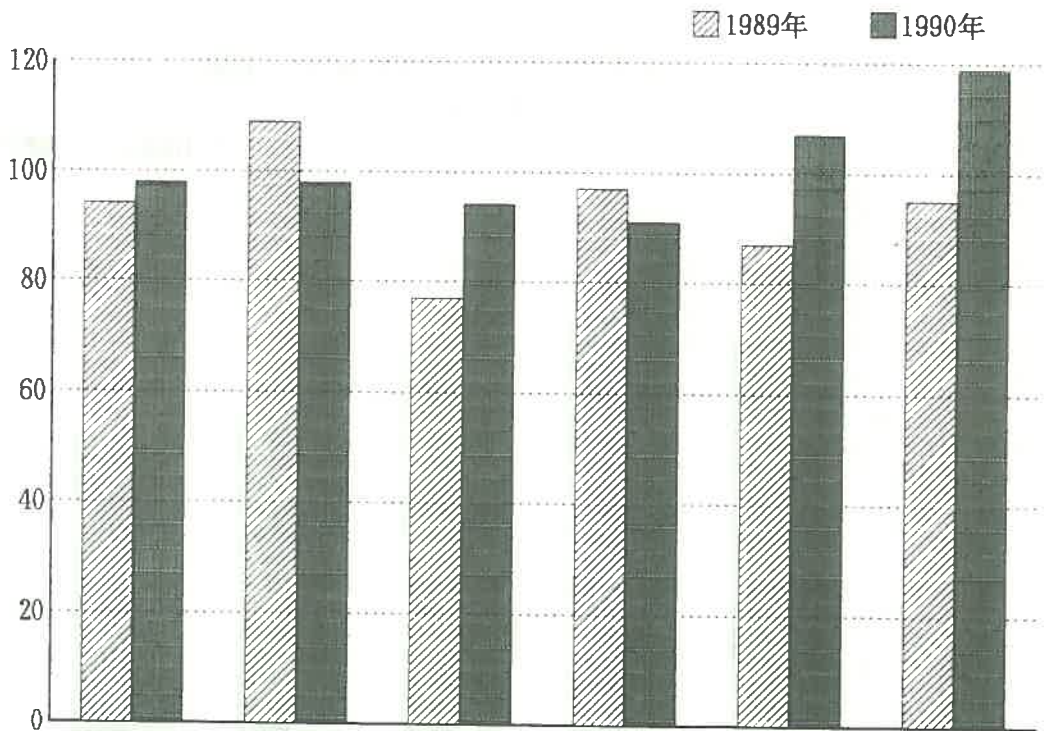


	反復横飛び	垂直飛び	握力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降
1989年	102	106	70	98	75	84
1990年	103	98	94	97	109	111

体力診断テストの比較（11才男子）

性別		男 子						
年齢	地域	種目	反復横	垂直とび	握力	伏臥上体	立位体	踏み台
			とび(回)	(cm)	(kg)	そらし(cm)	前屈(cm)	昇降運動(指数)
11才	全国		42.8	38.8	21.3	47.2	7.6	70.0
	県		40.6	37.6	21.0	45.8	6.9	69.7
	本校	昨年	39.2	42.1	16.7	45.9	7.2	68.5
		本年	42.0	37.9	20.1	43.1	8.1	83.6

全国を100としたときの本校の実態

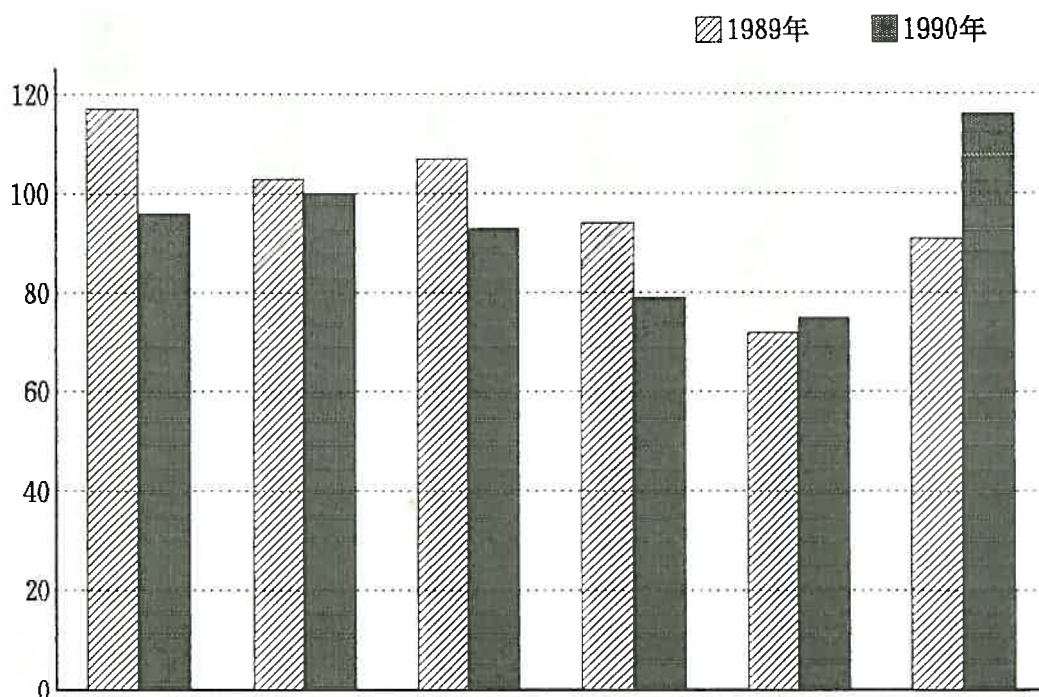


	反復横飛び	垂直飛び	握力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降
1989年	94	109	77	97	87	95
1990年	98	98	94	91	107	119

体力診断テストの比較（11才女子）

性別		女子						
種目	反復横とび(回)	垂直とび(cm)	握力(kg)	伏臥上体そらし(cm)	立位体前屈(cm)	踏み台昇降運動(指数)		
11才	全国	40.7	36.6	19.7	49.3	10.5	66.0	
	県	39.5	34.9	19.8	47.2	9.1	64.5	
	本校	昨年	47.2	37.8	21.7	47.0	7.9	59.9
		本年	39.0	36.7	18.3	38.9	7.9	76.4

全国を100としたときの本校の実態
11才女子



	反復横飛び	垂直飛び	握力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降
1989年	117	103	107	94	72	91
1990年	96	100	93	79	75	116

(4) 授業実践

對美業對 (4)

体育科学習指導案

平成2年5月23日(水)

大浜小学校5年2組

男子15名 女子16名 計31名

指導者 漢 那 憲 吉

1 単元名 バスケットボール

2 運動の特性

(1) 一般的特性

2チームが入り混じり、パス、ドリブルなどを使って攻めたり、守ったりしながら相手ゴールにシュートして得点を競いあう運動である。

ゴールが高くて小さいので、シュートは難しいがスリルがあり、入ったときの喜びは大きい。

(2) 子供から見た特性(アンケート調査より)

楽しいときはどんなときですか。

- | | |
|----------------------------|-----|
| (ア) ゲームに勝ったとき。…………… | 21人 |
| (イ) パスやシュートがうまくできたとき。…………… | 5人 |
| (ウ) みんなが協力したとき。…………… | 4人 |
| (エ) その他。…………… | 1人 |

楽しくないときはどんなときですか。

- | | |
|-----------------------------|----|
| (ア) ゲームに負けたとき。…………… | 10 |
| (イ) 文句をいわれたときや喧嘩をしたとき。…………… | 7 |
| (ウ) 自分にパスが回ってこないとき。…………… | 5 |
| (エ) シュートが決まらないとき。…………… | 5 |
| (オ) 失敗したとき。…………… | 4 |
| (カ) その他。…………… | 1 |

3 児童の実態

男女間に運動能力の差はあるものの、ボール運動に対する関心は極めて高い。

児童はこれまでにポートボールを経験しているが、バスケットボールの経験は一部を除いてほとんどの児童は経験がないが、バスケットボールに対する知識は、ある程度ある。

ボール運動はチーム中心になるので、技能の高い子供だけがプレーしたり、女子にはパスが回らなかつたりして、楽しく出来ない場合もある。

しかし、本校の設備面は十分なものでなく、そのため子供たちはバスケットボールに親しむ機会が少なかった。

調査結果から「子供から見た運動の特性」は次のようにとらえることができる。

① ゲームの楽しさは勝つか負けるかわからないとき、力いっぱい楽しめる運動である。

- ゲームの未確定要素
- チーム間の力の均等

② マナーがよくないとき楽しさがなくなるがチーム内で協力しあうことによって意欲が高まる運動である。

- チームワークの形成
- マナーや協力の重視

③ 負け続けると楽しくないが作戦や技術を工夫し乗り越えると楽しさが深まる運動である。

- 技術・戦術の工夫の
- 為の資料提示

④ 力いっぱい活動できないと楽しくないが、ボールに触れる機会が多くなれば楽しめる運動である。

- 一人ひとりの個人差重視
- ルールの工夫
- チームの人数

4 バスケットボールに対する 基本的な考え方

バスケットボールの特性をとらえると「チームで協力して得点を競い合う」という性格が浮かんでくる。また、子供たちはゲームをすることがとても楽しいと感じている。

5年生におけるバスケットボールはその種目の本格的なスタートであることや、学級の実態を考えあわせ、児童の運動欲求をどのようにとらえ、充足させ楽しいバスケットボールをさせていくか考えなければならない。

児童がバスケットボールの特性に触れ自分の持っている力をだしきると共に、バスケットボールの学習過程において仲間と協力し、自主的に参加することによって楽しいバスケットボールの学習を進める事ができると考える。

5 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

ルールやマナーに気を付け、協力してバスケットゴールを攻めたり、守ったりしてゲームを楽しむ。

(2) 学習の道筋

ねらい1

ルールやマナーに気を付け、今持っている力でゲームを楽しむ。

ねらい2

自チームと力の合ったチームと対抗戦を楽しむ。

ねらい3

これまで学習した技術や戦術を工夫して大会楽しもう。

6 時間配分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
10	は じ め	ねらい1			ねらい2 めあて1 めあて2						ねらい3		
20													
30													
40													

7 学習と指導

	学習のねらいと活動	指 導
は じ め 30 分	①学習のねらいと道筋を知る。 ②チームメンバーを決め役割分担をする。 ③ルールやマナーを知る。 ④学習カードの使い方を知る。 ⑤用具の準備、あとかたづけについてしる。	施 設 ・ 用 具 ベル …… 2 得点板 …… ストップウォッチ… 1 ボール …… 1 1個 ゲーム用ベスト… 人数分 コート大 …… 1
な か ① 15 + 45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ねらい1 ルールやマナーに気を付けて、今持っている力で ゲームを楽しむ。 </div> ①めあてを確認する。 ②ためしのゲームをする。 総あたり戦で1チーム3～4試合行う。 ゲーム時間 (前半8分) 1チーム5名出場(後半は交代する。) A 対 B	○めあてが適切か ○チーム間の力が均等しているか ○バスケットをどの程度知っているか。 ○ルールやマナーに問題はないか 必要に応じて指導する。 ○チームの全員がかならず1回は ゲームに出るように指導する。

<p>×</p> <p>3</p>	<p>C 対 D</p> <p>③前半のゲームを反省し、資料を活用して練習や作戦を考える。</p> <p>後半（8分）</p> <p>A 対 B</p> <p>C 対 D</p> <p>④ゲームの反省をし次時への課題を見つける。</p> <p>⑤学習カードに記入し自己評価をする。</p>	<p>○審判、得点係、時計係はゲームのないチームから出す。</p> <p>○疎外されている者がいないかどうか観察する。</p> <p>ゲームを楽しんでいるか。</p> <p>○前半のゲームを反省しながら資料を活用し、話し合い活動がうまくいっているか観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>○練習方法や場所は各チームで工夫させる。</p> <p>○話し合い活動が生かされているか。</p> <p>○各チームや個人が課題を見つけられるよう助言する。</p>
-------------------	--	---

<p>な</p> <p>か</p> <p>②</p> <p>45</p> <p>×</p> <p>6</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい2</p> <p>自チームと力の合ったチームと対抗戦を楽しむ。</p> </div> <p>①めあてを確認する。</p> <p>②対抗戦型で2回は同じチームと対戦する。</p> <p>ゲーム時間 (前半4分 後半4分)</p> <p>1チーム5名出場(後半は交代する。)</p> <p>③ゲーム1をする。</p> <p>(前半4分 話し合い1分 後半4分)</p> <p>A対B</p> <p>C対D</p> <p>④ゲーム1の反省をし、資料を活用して練習や作戦の話し合いをする。</p>	<p>○めあてが適切か</p> <p>○チームの全員がかならず1回は出れるよう指導する。</p> <p>○出場メンバーはチームの話し合いで決める。</p> <p>○パスやシュートが一部の子供に片よっていないか観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>○話し合い活動がうまくいっているか観察する。必要に応じて助言する。</p> <p>○場所や方法は各チームに任せる。</p> <p>○技術や作戦の工夫のための資料を準備し、活用できるようにする。</p>
--	--	---

- ④ゲーム2をする。
 (前半4分 話し合い1分 後半4分)
 A B
 C D
- ⑤本時の反省をし次時の課題の課題を見つける。
- ⑥学習カードに記入し、自己評価をする。

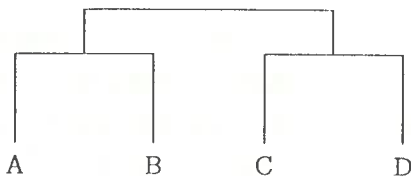
- 前半に出れなかったひとは必ず出れるようにする。
- 各チームや個人課題が見つかるようにする。

な
か
③

ねらい3

これまで学習してきた技術や作戦を工夫して大会を楽しもう。

- ①トーナメント戦をする。



- ゲームを楽しんでいるか
- これまでの技術や戦術が活かされているか。
- 危険なプレーがないか観察し危険なプレーには指導する。
- チーム内で協力しているか。

ま
と
め
15
分

- ①学習カードをもとに反省する。
- ルールやマナーに気を付けてみんなが楽しくできたか。
- 力いっぱい活動できたか。
- 個人やチームのめあてが達成できたか。
- ②学習カードに記入し、自己評価をする。

- 学習カードをもとに発表してもらおう。
- めあての達成の様子を発表する

	<p>⑦第2試合 アメリカンドリームズ</p> <p>対</p> <p>あらしのX</p>	
<p>ま と め 5 分</p>	<p>①ゲームの反省をし、次時への課題を見つける。</p> <p>②学習カードに記入し、自己評価をする。</p>	<p>○学習カードをもとに発表してもらおう。</p>



体育科学習指導案

平成2年7月4日 (水)

大浜小学校4年2組

男子12名 女子15名 計27名

指導者 長 浜 明 美

1 単元名 サッカー (ラインサッカー)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

2つのチームが入り混じってボールを奪いあい、足を使ったパスやドリブルなどで互いに相手の守りを交わしたりして、ボールをゴール近くに運び、シュートして得点を競いあうことが楽しいスポーツである。(ゴール競争型集団スポーツ)

また、ルールの工夫、ボール操作などの技術や戦術の、練習の工夫、チームワークやマナーなどの人間関係への配慮等によつて、ゲームの楽しさがより深まるスポーツである。

(2) 子供の立場から見た特性 (アンケート調査より)

- (ア) ゲームに勝ったとき楽しい。
- (イ) パスやシュートができたとき楽しい。
- (ウ) チームのみんなで協力できたとき楽しい。
- (エ) ゲームに負けたとき楽しくない。
- (オ) 文句をいわれたときやけんかをしたとき楽しくない。
- (カ) 自分にパスが回ってこないとき楽しくない。
- (キ) シュートが決まらないとき楽しくない。

3 子供の実態

サッカー(ラインサッカー)は全員3学年のときに経験しており、ほとんどがサッカーのゲームに関心を持っている。

また、4学年になってもボール運動ではポートボールを経験している。ゲームではドリブルで相手を抜いたり、シュートしたりすることに強い関心を示したが、パスをして攻めたり守ったりする意識は見られなかった。技術的にも、個人差があり、ワンマンプレーが出たり、ボールから逃げたりする子がいる。

4 学習のねらいと道筋

学習のねらい

みんなで攻め方、守り方を工夫して、サッカーを楽しむ。

学習の道筋

ねらい1

ルールやメンバーに慣れ、出来るパスやドリブルで、色々なチームに挑戦する。

ねらい2

ボール扱いや攻め方、守り方を工夫して、力の合ったチームに挑戦する。

ねらい3

ボール扱いや攻め方、守り方をを工夫して、色々なチームに挑戦する。

5 時間配分

	1	2	③	4	5	6	7	8	9	10	11	
10	はじめ	ねらい 1		ねらい2					ねらい3			
20												
30												
40												

6 学習と指導

は じ め 30 分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを理解し、学習の進め方を知る。 ○チームメンバーを決め、役割分担をする。 ○ルールや約束事を決める。 ○用具の準備・片づけについて知る。 ○学習カードの記入の仕方を知る。 	施設 ・ 用具 コート…ゴールライン 15m タッチライン 30m ゴールエリア 3×15m ボール 石灰 ベル ライン引き 得点板 ストップウォッチ
	学習のねらいと活動	指 導
な か ①	試しのゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム間の力が均等しているか確認する。 ○サッカーをどの程度知っているか確認する。

ねらい1

ルールやメンバーに慣れ、できるパスやドリブルで、いろいろなチームに挑戦する。

15分+

1時間の学習の進め方

- ①コート作りをする。
- ②めあてを確認する。
- ③できるパスやドリブルで簡単な練習をする。
- ④ゲームをする。

⑤グループでゲームの反省をする。

⑥全員で学習の反省をする。

- ルールは最小限に留める。
- 反則したら、正直に手をあげゲームが中断しないようにさせる。

○ルールは固定せず、ゲームをしての反省から工夫していくようにさせる

○上手な子も、そうでない子もお互いを大切に話合いが行われているか。

○今日の反省に基づいた次時のめあてを発表させる。

ねらい2

ボール扱いや攻め方、守り方を工夫して、力の合ったチームに挑戦する。

なか

○変更や追加したいルールについて学級で話し合って決める。

②

○1時間の学習の進め方

- ①コート作りをする。
- ②めあてを確認する
- ③チームの話合いをする。

45

(攻め方、守り方の作戦について)

④ボール扱いや攻め方・守り方の練習をする。

×

⑤ゲーム1を行う。

A対B

C対D

⑥作戦を練り直し、練習する。

○ねらい1のゲームの反省を出させ必要に応じて自分たちの力にあったルールにするように助言する。

○パスやシュートが一部の子供に片よっていないか観察し、必要に応じて指導助言する。

○指導板を使って示しながら、グループに合った練習を助言する。

- ⑦ゲーム2を行う。
 - A B
 - C D
- ⑧グループでゲームの反省をする。
- ⑨全員で学習の反省をする。

な
か
③
45
×
2
+
30
分

ねらい3
ボール扱いや攻め方・守り方を工夫して、いろいろなチームに挑戦する。

○1時間の学習の進め方

- ①コート作りをする。
- ②めあてを確認する。
- ③チームの話合いをする。
- ④作戦に基づいた練習をする。
- ⑤トーナメント形式でゲームをする。

```

      graph TD
        A --- B
        C --- D
        B --- E
        D --- E
        E --- F
      
```

- ゲームを楽しんでいるか。
- これまでの技術や作戦が活かされているか。
- 危険なプレーがないか、観察し危険なプレーには指導する。
- チーム内で協力しているか観察する。

- ⑥ゲームの合間を利用して、作戦を練り直し、練習する。
- ⑦グループでゲームの反省をする。
- ⑧全員で学習の反省をする。

- ま
と
め
15
分
- 1, 次のことについてグループごとに学習の反省をする。
 - ルールやチームの仲間になれたか。
 - 攻め方・守り方の工夫をしてゲームができたか。
 - ボール扱いが上手になりそれをゲームに生かしたか。
 - 2, グループで反省したことを学級全体で発表しあう。

7 本時の学習指導案

本時のねらい

ルールやチームの仲間になれ、できるパスやドリブルで、いろいろにチームに挑戦する。

は じ め 8 分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のねらいと道筋を知る。 ○ルールやマナー・グループのめあてを確認する。 ○各自の役割分担を知る。 ○ウォームアップ 	施 設 ・ 用 具	<ul style="list-style-type: none"> ○休み時間内で準備 コート…1 得点板…1 石灰 ボール…12 ライン引き ベル …2 ストップウォッチ…1
ね ら い と 学 習 活 動		指 導	
な か 25 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて 今できるパスやドリブルで協力してゲームを楽しむ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて例 ○全員がボールに触れるようにしよう。 ○ボールをひとり占めせずパスをまわそう。 ○できるだけ女の子にシュートさせよう。 ○失敗しても文句をいわず励ましあってやろう。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>① 各チームのめあてにそってできるパスやドリブルを簡単に練習する。(5分)</p> <p>② ゲーム1をする。 FIXチーム対大浜FCチーム 前半4分 休み2分 後半4分</p> <p>③ ゲーム中は試合を見学し、休みは作戦を工夫したり、チーム練習をしたりする。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○めあてが適切かどうか観察し必要に応じて指導助言する。</p> <p>○パスをするときのボールのけり方には、足の甲で蹴るけり方、足の内側で蹴るけり方がある。 ドリブルはできるだけ足にボールを接触させ押し進める。</p> <p>○上手な子もそうでない子もお互いを大切にして練習が行われているか観察する。</p> <p>○個人プレーをしていないか疎外されているものがないか観察する。</p> <p>○ゲームの反省をしながら作戦を工夫したり、練習したりしているか観察し助言する。</p> </div> </div>		

	④ ゲーム2をする。 7 Xチーム対もえる Xチーム (前半4分 休み2分 後半4分)	
ま と め	⑤ 各チームでゲームの反省をする。 ○チームのめあてがどのくらいできたか がんばりたいことは何か、学習カード に記入する。	○次時のめあてにいかせるように する。
12 分	⑥ ゲームを通してほめてあげたいチーム や直して欲しいなどに付いて反省する ⑦ 次時の組合せを知る。	○チームワークのすばらしさが得 点に結び付き、全員が楽しめる ゲームになることに気づかせる。



体育科学習指導案

平成2年9月19日(水)

大浜小学校

男子11名女子16名 計27名

指導者 佐久本 茂樹

1 単元名 サッカー

2 運動特性

(1) 一般的特性

2つのチームが入り混じってボールを奪い合い、足を使ったパスやドリブルなどで相手の守りを交わしたりしてボールをゴール近く運び、シュートして得点を競いあうことが楽しい運動である。

また、ルールの工夫、ボール操作などの技術や戦術の工夫、練習の工夫、チームワークやマナー等の人間関係への配慮等によってゲームの楽しさがより深まる運動である。

(2) 子供の立場から見た特性(アンケート調査より)

(ア) ボールを思いっきり蹴ると気持ちがすっきりする。

(イ) チームの立てた作戦で試合に勝つと楽しい。

(ウ) 相手チームから反則を受けると楽しくないが、フェアプレイでゲームが出きると気持ちがいい。

(エ) シュートができるとすごく満足する。

(オ) パスやドリブルなどで相手の守りをかわして攻めることができた時、チームワークがよくなりゲームが楽しくる。

3 子供の実態

3年生のころから、ラインサッカーを通して概に経験しており、男子を中心に関心は高い。最近ではテレビ等で多くのゲームが放送され、優れたテクニックを見る機会も多い。

しかし、その反面技術や体力、体格の未熟さを考えない荒いプレーが時々目に付く。

女子の多くはボールに対する恐怖心が強く、ゲームそのものを楽しんでいない。

その理由は

(ア) 男女混合にする時男子同志でボールを占有してしまい、ボールに触れる機会が少ないからである。

(イ) 男女間の技術的・体力的な差が著しく、男子の動きについて行けない。

その結果、女子はゲームの進行上邪魔もの扱いをされることが多い。そのために、増す増す男子同志の占有機会が多くなっている。

逆に女子だけのチームを組み、女子同志のチームでゲームをすると多少の個人差はあるが、よく動きゲームを楽しんでいる。

男女間の意識が先行しすぎてチームワークの形成やチームプレーを行うとき支障をきたす。チームでの話し合いもまとまりにかけると。

4 学習のねらいと道筋

() 学習のねらい

みんなで攻め方、守り方を工夫してサッカーを楽しむ。

() 学習の道筋

ねらい1 メンバーやルールになれ、協力して今できるパス・ドリブル・シュートでいろいろなチームに挑戦する。

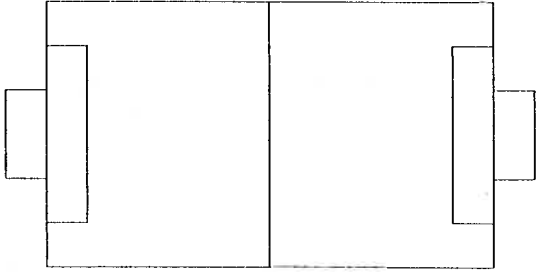
ねらい2 攻め方、守り方やボール扱いを工夫して力の合ったチームに挑戦する。

ねらい3 攻め方、守り方やボール扱いを工夫して、いろいろなチームに挑戦する。

5 時間配分

	1	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10
10	は じ め	ねらい1			ねらい2				ねらい3	
20										
30										
40										ま と め

6 学習と指導

	学習のねらいと指導	指導
<p>はじめ 20分</p> <p>な か 25分 + 45分 × 3</p>	<p>①学習のねらいと道筋、時間配分について知る。</p> <p>②グルーピングと役割分担を知る。</p> <p>③ルールやマナーについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ねらい1 ルールやチームのメンバーに慣れ、協力していまできるパスドリブル、シュートを使っているいろいろなチームに挑戦する。</p> </div> <p>コートづくり</p> <p>① 試しのゲームをする。</p>  <p>②リーグ戦形式でゲームを組合せ、いろいろなチームとゲームができるようにする。</p> <p>③準備運動をかねた簡単な練習をする。</p> <p>④ポジションを決めてゲームをする。</p> <p>⑤ゲームの合間にチームでめあてについて話し合う。</p> <p>⑥ゲームの後、話し合いをする。</p> <p>⑦学習カードに記入し自己評価する。</p>	<p>施設 ・ 用具</p> <p>コート大1、小1 ボール3個 ベル 得点板 ストップウォッチ ゲーム用ベスト 旗4本（紅白） カラーコーン</p> <p>○チーム間のバランスを確認する。</p> <p>○サッカーに対する知識の程度を確認する。</p> <p>○ルールは子供の技術や技能に応じて変更できるようにする。</p> <p>○反則の適用は、子供のレベルに応じて加減するようにする。</p> <p>○リーダー同志の話し合いで組合せを決めさせる。</p> <p>○コートを有効に使えるよう片よらずに広げる。</p> <p>○前のゲームの反省と次のゲームの作戦を立てさせる。</p>

<p>な か 45 × 4</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい2 攻め方、守り方やボール扱いを工夫して力の合ったチームに挑戦する。</p> </div> <p>① ②力の合ったチームに挑戦できるように対戦形式でゲームの組合せをする。</p> <p>③ゲーム1をする。</p> <p>④ゲームの合間を利用して攻め方、守り方やボール扱いについて工夫したり練習したりする。</p> <p>⑤ゲーム2をする。</p> <p>⑥ゲームの後反省の話し合いをする。</p> <p>⑦学習カードに記入し、自己評価をする。</p>	<p>○ねらい1の成果を生かして攻め方、守り方やボール扱いの工夫するよう助言する。</p> <p>○力の合ったチーム同志のゲームになるようにする。</p> <p>○指導書の内容にとらわれずチームで必要とする練習方法を考えるよう助言する。</p> <p>○チームや個人の高まった力を発揮できるよう助言する。</p> <p>○学習カードをもとに反省させる。</p>
<p>な か 45 × 2</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい3 攻め方、守り方やボール扱いを工夫していろいろなチームに挑戦する。</p> </div> <p>①リーグ戦をする。</p> <p>②準備運動をかねた簡単な練習をする。</p> <p>③組合せに従って、相手チームに合わせてねらい2で高められた技術や作戦を生かしてゲームをする。</p> <p>④ゲームの後話し合いをする。</p>	<p>○ねらい2で高められた力が発揮されているかどうか観察し必要に応じて助言する。</p> <p>○学習カードをもとに話し合いをさせる。</p>
<p>ま と め 15 分</p>	<p>①ゲームの反省をする。</p> <p>○学習カードをもとに反省をする。</p> <p>○みんながルールやマナーを守ったか。</p> <p>○楽しくゲームができたか。</p> <p>○攻め方、守り方を工夫できたか。</p> <p>○学習カードに記入し自己評価をする。</p>	

7 本時の学習展開

本時のねらい

攻め方、守り方やボール扱いを工夫して、力の合ったチームに挑戦する。

	学習のねらいと指導	指導
はじめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ①本時のねらいと道筋を知る。 ②チームや個人のためあてを確認する。 ③各自の役割分担を知る。 ④ウォームアップ（関節の曲げ伸ばしを中心） 	施設・用具 <ul style="list-style-type: none"> ○授業開始前に準備する。 コート大1、小1 得点板、ベル3個 ボール2個 ストップウォッチ ゲーム用ベスト 旗4本（紅白） カラーコーン
なか 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて 前時のゲームの反省を生かして、工夫した攻め方、守り方ができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ①ゲーム1をする。 1チーム7名 （前半7分 作戦タイム2分 後半7分） ②他の2チームは、審判などの係りやミニコートで練習試合をする。（同じ時間を使用） ③ゲーム2をする。 方法はゲーム1と同じ 練習試合をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習の反省を確認させる。 ○ボールを真剣に追っているか観察する。 ○危険なプレーは即座に注意、指導する。 ○他の2チームから主審、線審など各係をだす。 ○前半、後半で交代する。 ○練習の成果や作戦が生かせるように助言する。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ④各チームで学習の反省をする。 チームや個人のためあてがどの程度達成できたか確認する。 ゲーム中、危険なプレーがなかったか反省する。 ⑤学習カードに記入し、自己評価をする。 ⑥次時の組合せを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードをもとに反省する。 ○次時のめあてを立てるときの参考になるように助言する。 ○気持ちよくゲームをする為にはフェアプレイが大切である事を知らせる。

学習カード

(サッカー)

サッカーチームカード

チーム _____ 月 _____ 日

①

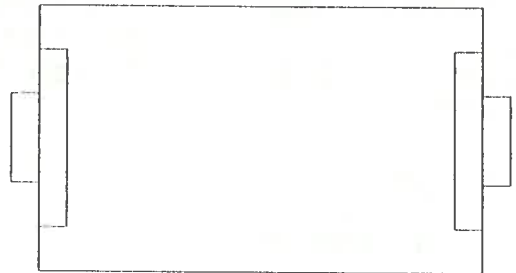
学習のねらい	チームのめあて

②

試合結果

第1ゲーム	対
第2ゲーム	対

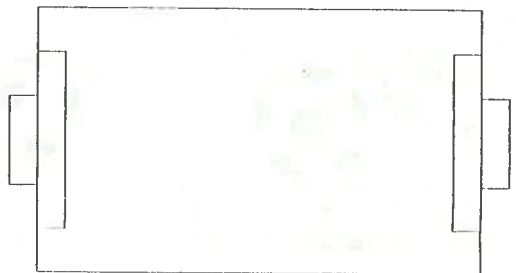
作戦・練習



③

係りの仕事

	ゲーム1	ゲーム2
主審		
線審		
時計		
得点		
記録		



④

今日の反省

できたA ふうB もうすこしC

チームで協力して練習できたか。	
めあてをめざし、全力でゲームができた	
ルールを守り、不平をいわなかった。	

⑤

気がついたこと

基本の動作

【インステップキック】



- けり足の甲にボールを当てる。
- 必ずボールの中心をけるように心がける。

【インサイドキック】



- けり足のつま先は、できるだけ上にあげて、足の甲とすねが直角になるようにする。

【ドリブル】



- 上体を起こし、ひざを柔らかく使う。
- ボールだけを見ないで、まわりを見るようにし、目の高さを変えないでまっすぐ走る。

【トラップ】

足の裏を使って



- とんできたボールがバウンドするところを、足の裏を使って止める。

足の各部位を使って

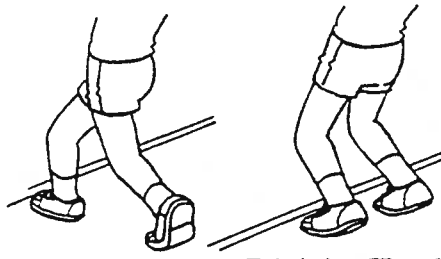


- アウトサイド
- インステップ
- インサイド
- ボールが当たった瞬間に、足を引く。

【スローイン】



- 指を広げて、ボールをしっかり持つ。
- 必ず両手に均等な力を入れて、頭の後ろに持つ。



足を前後に開いて 足を左右に開いて

- ラインの外から、両足を地面につけたままボールを投げ入れる。
- カかとをあげてもよい。
- 全身の反動を使って遠くへ投げる。

【ヘディング】

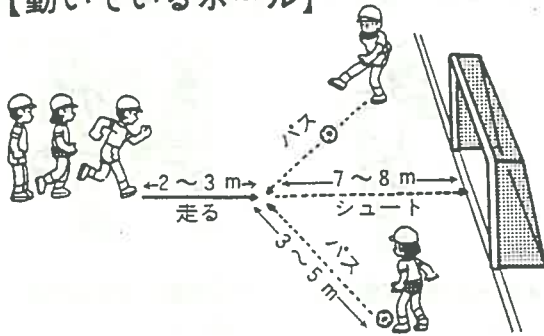


• 目を開け、ボールの中心をひたいてとらえる。

- 体を後ろへそりかえた反動で、ボールをひたいていただく。

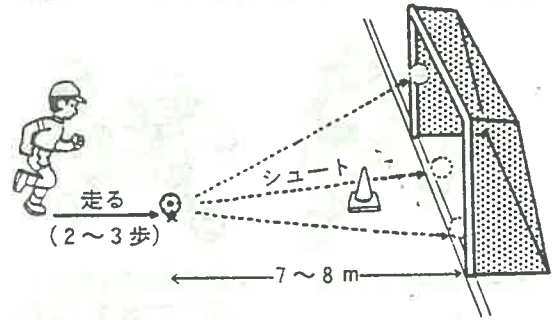
シュート・パス・ドリブルの練習

【動いているボール】



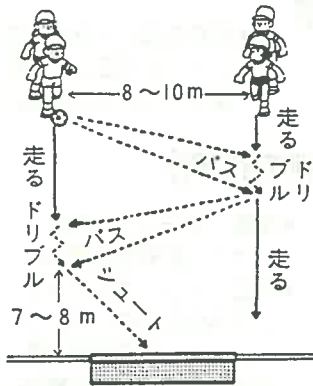
- 初めは、斜め左(右)からボールを入れる。
- 初めはゆるいボールを、だんだんと速いボールをシュートする。

【障害物をよけて】

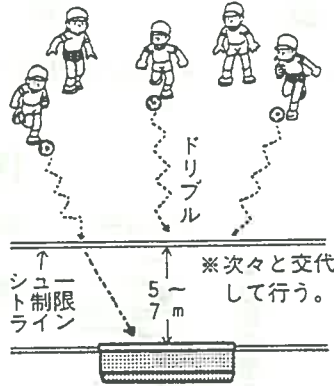


- なるべく左右の端をねらっつける。

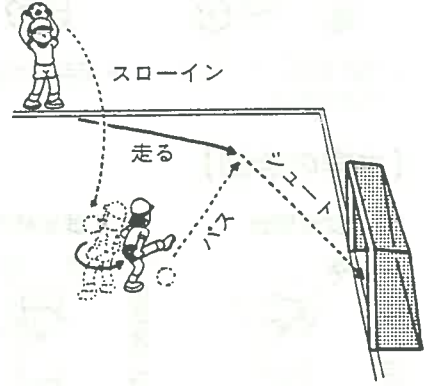
【みんなでパスしあってシュート】



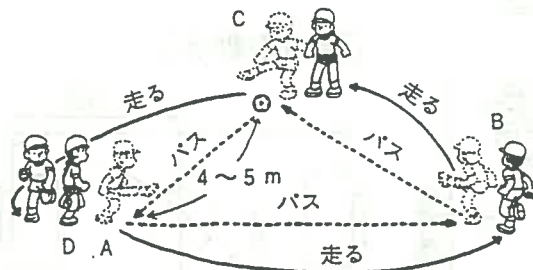
【いろいろな位置からドリブルしてシュート】



【スローインしてパスを受けてシュート】

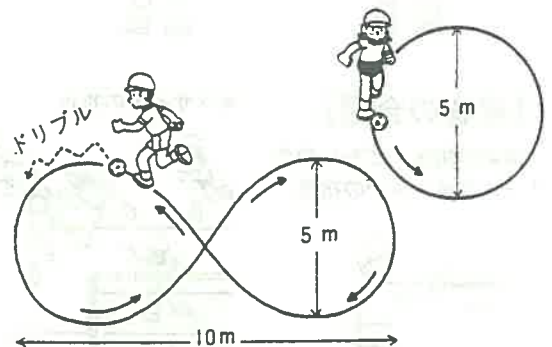


【パスアンドラン(三角パス)】



- AはBにパスをしたら、Bの地点まで走る。以後、同様にB→C、C→D (Aがパスしたあと、DがAの地点で待つ)、D→Aの順にパスアンドランをくり返し、パス練習をする。

【ドリブル】



- 足の内側や外側を使って、8の字や円周上をドリブルする。

おもな反則と審判の仕方

【ホールディング】



- 手で相手をつかむ。

【トリッピング】



- 足で相手の足をひっかけつまずかせる。

【ハンドリング】



- ボールを手や腕で扱う。

【特に危険なプレー】



- 足を高く振り上げるなど。

【ストライキング】



- 相手を突いたりなぐったりする。

【キッキング】



- 相手をける。

【プッシング】



- 手やひじで相手を押す。

×反則があったら



- 反則の起こったところにボールを置いて、相手チームの人がける。

【主審の合図】

試合開始



試合終了



ゲーム中



【審判の役割】

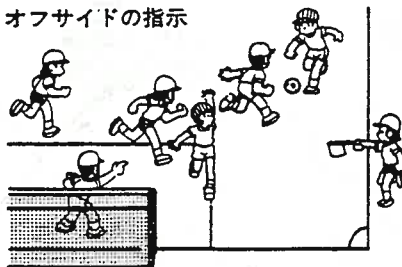
- 主審** • 反則、ゴールインなど、いっさいの判定を行う。
- 線審** • スローイン、キープエリア内からのキック、コーナーキックの指示。反則の判定など主審の補助。手旗を用いて合図する。

【線審の合図】

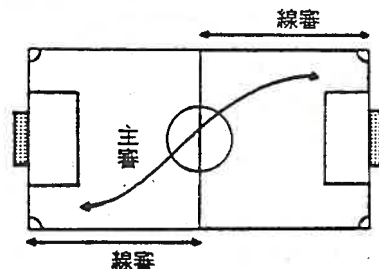
反則の指示・どちらのチームのボールかの指示



オフサイドの指示



【審判の動き】



- ボールがきていないのに、相手の最後尾の守備の人（キーパーは除く）より前に出た場合。

体育科学習指導案

平成2年10月24日

大浜小学校2年2組

男子20名 女子12名 計32名

指導者 金 嶺 秀 子

1 単元名 サッカー遊び

2 運動の特性

1 一般的特性

コート内に入り交じった双方のメンバーが、ボールを奪いあい、足を使ったパスやドリブルなどで、相手の守りを交わしてボールを進め、ゴールにシュートして得点を競いあうことが楽しい運動である。

2 子供の立場からみた特性（アンケート調査より）

- チームのみんなが力を合わせると楽しい。
- ルールを守って仲良くすると楽しい。
- ボールを上手に蹴ったり止めたり、転がしたりするのが楽しい。
- ゲームに勝ったとき楽しい。

3 児童の実態

ボールを使ったゲームはこれまでにボール転がし、ボールけり、ドッジボールなどを経験している。みんな楽しく遊ぶための約束はある程度理解され身についてきているが、チーム意識は低くまだルールがしっかり守れない児童もいる。

ボール遊びはほとんどの子が好きだと答え「捕る、投げる、蹴る」など、ボールに触ったとき楽しいと感じている。休み時間にも男子の多くはサッカーで遊んでいるが、ボールをうまく止めたり、蹴ったりできない児童が多い。

4 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

ボールを蹴ったり、止めたり、とらえたりしてみんなで簡単なルールを決め、楽しくサッカー遊びをする。

(2) 学習の道筋

ねらい1 みんなで簡単なルールを決め、いろいろなチームとゲームを楽しむ。

ねらい2 みんなで力を合わせて、工夫してゲームを楽しむ。

5 時間配分

	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10
10	は									ま
20	じ	ねらい1				ねらい2				と
30	め									め
40										

6 学習と指導

	学習のねらいと活動	指 導
は じ め 1	① 学習のねらいや進め方を知り、学習の見通しを持つ。 ・学習のねらい ・学習の道筋 ・コートでの使い方 ・学習カードの使い方	施設 コート2、ボール 得点板、作戦板 ・ストップウォッチ 用具 カラーコーン バル
	② ルールやマナーについて話し合う。	○みんなが楽しむための 約束であることを理解 させる。
	③ 用具の使い方、準備、片づけにつ いて話し合う。	○得点板、作戦板などの 使い方をわからせる。
	④ チームを作り役割分担をする。 (男女混合 8名×4チーム)	○話し合いによって力が均 等になるようにチー ムを作らせる。
	⑤ 試しのゲームをする。	○チーム間の力の均等は どうか観察する。
な か 2	ねらい1 みんなで簡単なルールを決め、 いろいろなチームとゲームを楽しむ	
	① コート作りをする。	
	② 準備運動をする。	○縄を使ってリズム良く 準備運動をさせる。
	③ めあてを確認する。	○めあてが適切かどうか は事前に調べておく。
	④ チームで練習をする。	○めあてに合った練習を する。
⑤ ゲームをする。 相手を変えながら対戦する。	○対戦相手は前もって決 めておく。	

1 試合 前半 5 分 後半 5 分

1 チーム 2 試合

⑥ ゲームの反省をし、問題点を話し合う。

⑦ 学習のまとめをする。

- ・学習カードに反省を記入する。
- ・つぎのめあてを決める。

○ルールやマナーが守られているか。協力してゲームが進められているか観察する。

○わからないルールはないか、直したいルールはないかなどを話し合いクラスにあったサッカーのルールを決めるようにさせる。

○学習カードをもとに反省させる。

- ・楽しめていたか。
- ・ルールやマナーが守られていたか。
- ・適当なめあてを持って力いっぱい活動できたか。

ねらい 2

みんなで力を合わせて、工夫してゲームを楽しむ。

① ねらい 2 の学習の見通しを持つ。
話し合いによって対戦チームを決める。

② コート作りをする。

③ 準備運動をする。

④ めあて、対戦相手の確認をする。

○ねらい 1 で身に付いたルールやマナーを守り相手チームの特徴を考えて作戦を工夫しながら学習を進めて行くことを理解する。

○縄を使ってズム良く準備運動をさせる。

○めあてが適切かどうかは事前に調べておく。

<p>な か 9</p>	<p>⑤ ゲーム1をする。 前半4分 キーパーチェンジ1分 後半4分</p> <p>⑥ ゲームを反省し作戦を練り直す。</p> <p>⑦ 作戦を生かすための練習をする。</p> <p>⑧ ゲーム2をする。</p> <p>⑨ ゲームの反省をする。</p> <p>⑩ 学習のまとめをする。 ・学習カードに反省を記入する。 ・次のめあてを決める。</p>	<p>○チェックカードをもとに作戦板を使用して作戦を考えさせる。</p> <p>○作戦にあった練習になっているか観察し必要に応じて助言する。</p> <p>○作戦や練習は生かされているか観察する。</p> <p>○グループでする。</p> <p>○学習カードをもとに反省させる。</p> <p>○楽しめていたか。</p> <p>○ルールやマナーが守られていたか。</p> <p>○適当なめあてを持って力いっぱい活動できたか。</p>
<p>ま と め 10</p>	<p>① トーナメントのサッカー大会を行う。</p> <p>② 単元のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・楽しく学習できたか ・学習の進め方がわかり、できるようになったか。</p> </div>	<p>○これまでの作戦や練習を生かしてゲーム大会を行わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・学習の進め方がわかったか。 ・適当なめあてを持ってゲームを楽しんだか。 ・ルールや約束を守ることができたか。</p> </div>

7 本時の学習展開

本時のねらい

みんなで力を合わせて、工夫してゲームを楽しむ。

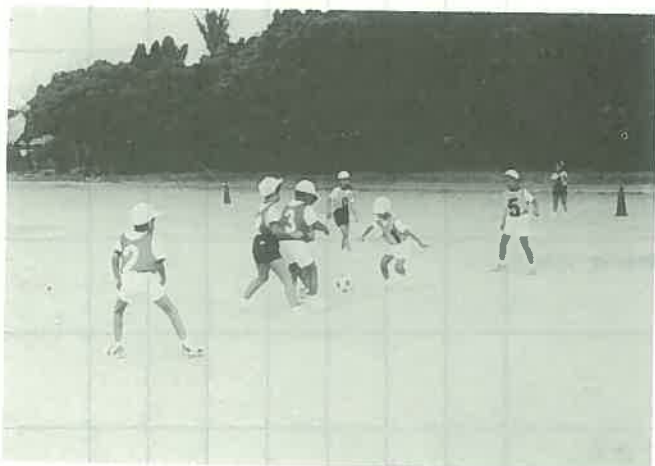
	学習のねらいと指導	指 導
	ねらい2の学習の見通しを持つ コート作りをする。	施設 ・ コート、ボール、 作戦板、石灰 用具 ・ 作戦板、ライン引き ストップウォッチ カラーコーン
は じ め 10 分	① 準備運動をする。 ② 話し合いをする。 ・ 本時のねらいと学習の進め方を 確認する。 ・ チームのめあて、個人のめあて を確認する。 ・ 各自の役割分担を確認する。	○短縄を使ってリズム良 く準備運動をさせる。 ○学習がスムーズに進め られるようにさせる。
な か 25 分	③ ゲーム1をする。 前半4分 キーパーチェンジ1分 後半4分 ④ ゲームを反省し、作戦を練り直す。 ⑤ 作戦を生かすための練習をする。 ⑥ ゲーム2をする。 ゲーム1と同じチーム同志で行う	○チームで力を合わせて ゲームを楽しんでいる か観察する。 ○チェックカードをもと に作戦板を利用して作 戦を考えさせる。 ○作戦にあった練習にな っているか観察し必要 に応じて助言する。 ○作戦や練習は生かされ ているか観察する。

⑦ ゲームの反省をする。

学習カードに反省を記入する。
次のめあてを決める。

○チームごとにリーダー
を中心に話しあわせる。

- ・楽しめていたか。
- ・ルールやマナー
が守れたか。
- ・めあてを持って
力いっぱいでき
たか。



体育学習カード

(ラインサッカー)

第 時 月 日 曜日 天気 ()									
今日のめあて									
練習すること									
ゲームの	(チーム)	(点)	(チーム)	(点)					
けっか	(チーム)	(点)	(チーム)	(点)					
チームとメンバーの反省									
よくできた…○ 少しできた… できなかった…×									
名前									
反省こうもく									
ボールを力いっぱいけったりうまくとめることができた。									
仲間同士ボールをうばいあいしない で仲良くできた。									
へたな友達や失敗した友達にもんく をいわなかった。									
約束が守れた。									
みんなで準備や後始末ができた。									
楽しくできた。									
つぎに がんば ること									

チェックカード

月 日

チーム

しんばん	
------	--

きろく	
とくてん	

たいせん	対
しょうはい	

たいせん	対
しょうはい	

ゲームのながれ

な ま え	パス、ドリブル				シュート				はんそく				

作戦カード

チーム

月

日

たいせんあいて (

)

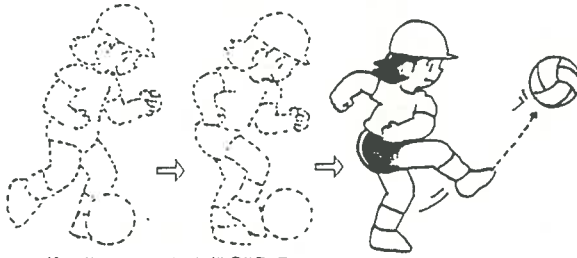
(ゲーム)

X

きほんのうごき

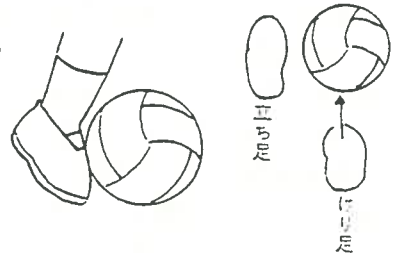
【足の甲でける】

○ けり方



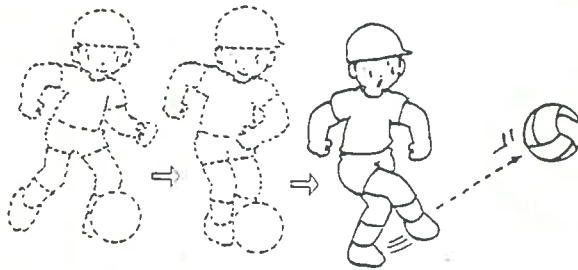
- ボールのすぐわきに踏みこむ。
- つま先を下に向けてける。

○ ボールをける足の位置



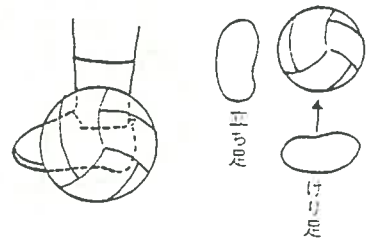
【足の内側でける】

○ けり方



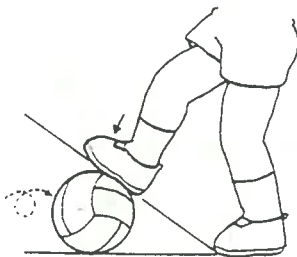
- 足の内側の面が、ボールの飛ぶ方向と直角になるようにしてける。

○ ボールをける足の位置



【足で止める】

○ 足の裏で



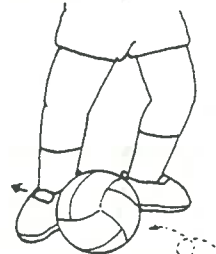
- 軽くボールを押さえる。

○ 足の甲で



- 足の甲にあたる瞬間に足を少し後方へ引くようにする。

○ 足の内側で



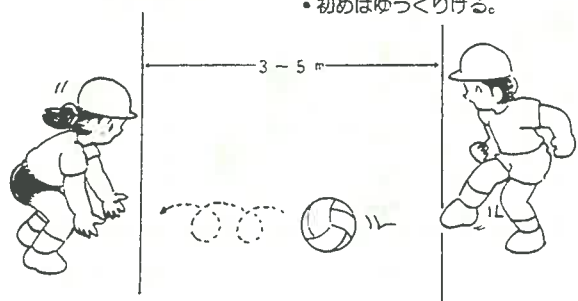
- ボールにふれる瞬間にすばやく足を引く。

【手で止める】



- てのひらをボールに向ける。
- 腰をおとして捕る。
- 指先を下に向けて軽く開く。

【ける、止める】



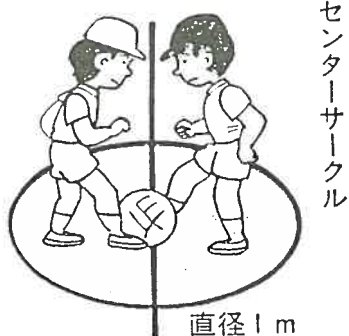
- ボールは、手や足で止める。

- 相手に向かってける。
- 初めはゆつくりける。

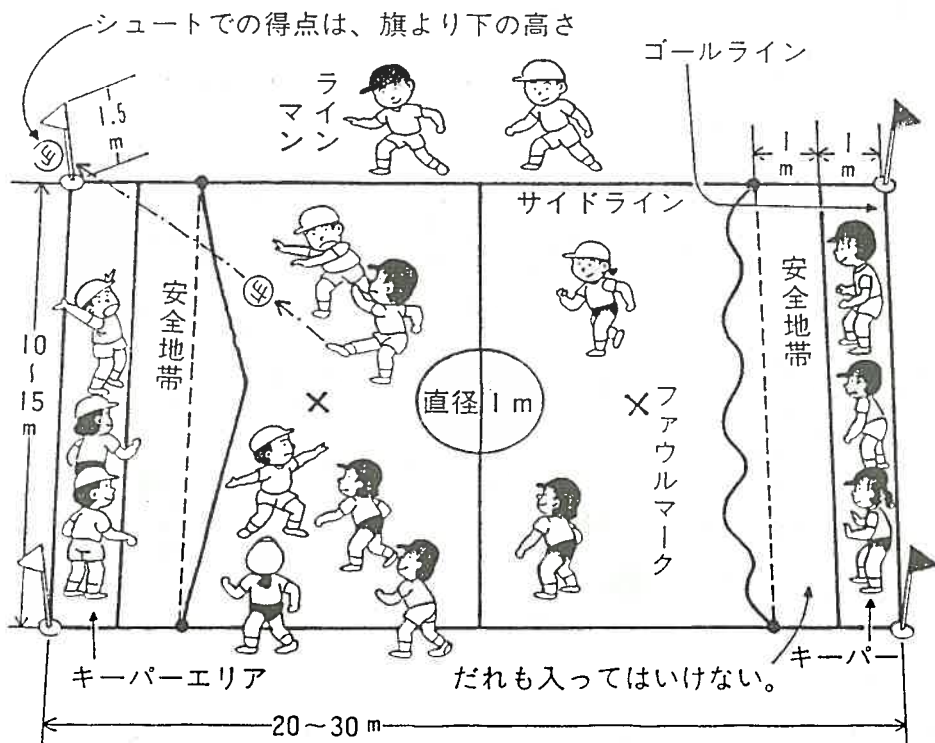
- ける回数を決めて交代する。

サッカーゲーム

- ボールがゴールライン（旗より下方）を通過したら1点。
- ラインマンは、自分の決められた範囲しか移動できない。サイドラインから出たボールは、ラインマンが中の味方に転がして入れる。
- キーパーは、キーパーエリア内しか移動できないが、手や足を使ってボールを止めたり、パスしたりできる。
- 安全地帯には、だれも入ってはいけない。
- 1ゲーム3分間で、フォワード、キーパー、ラインマンを交代する。(ローテーションする)



- 1チーム7〜9人。
- ゲームの開始は、センターサークルでのボールの取り合いから行う。
- 得点後の再開は、得点された側のキーパーが、キーパーエリアからける。
- フォワードは、手を使ってはいけない。



2年授業風景

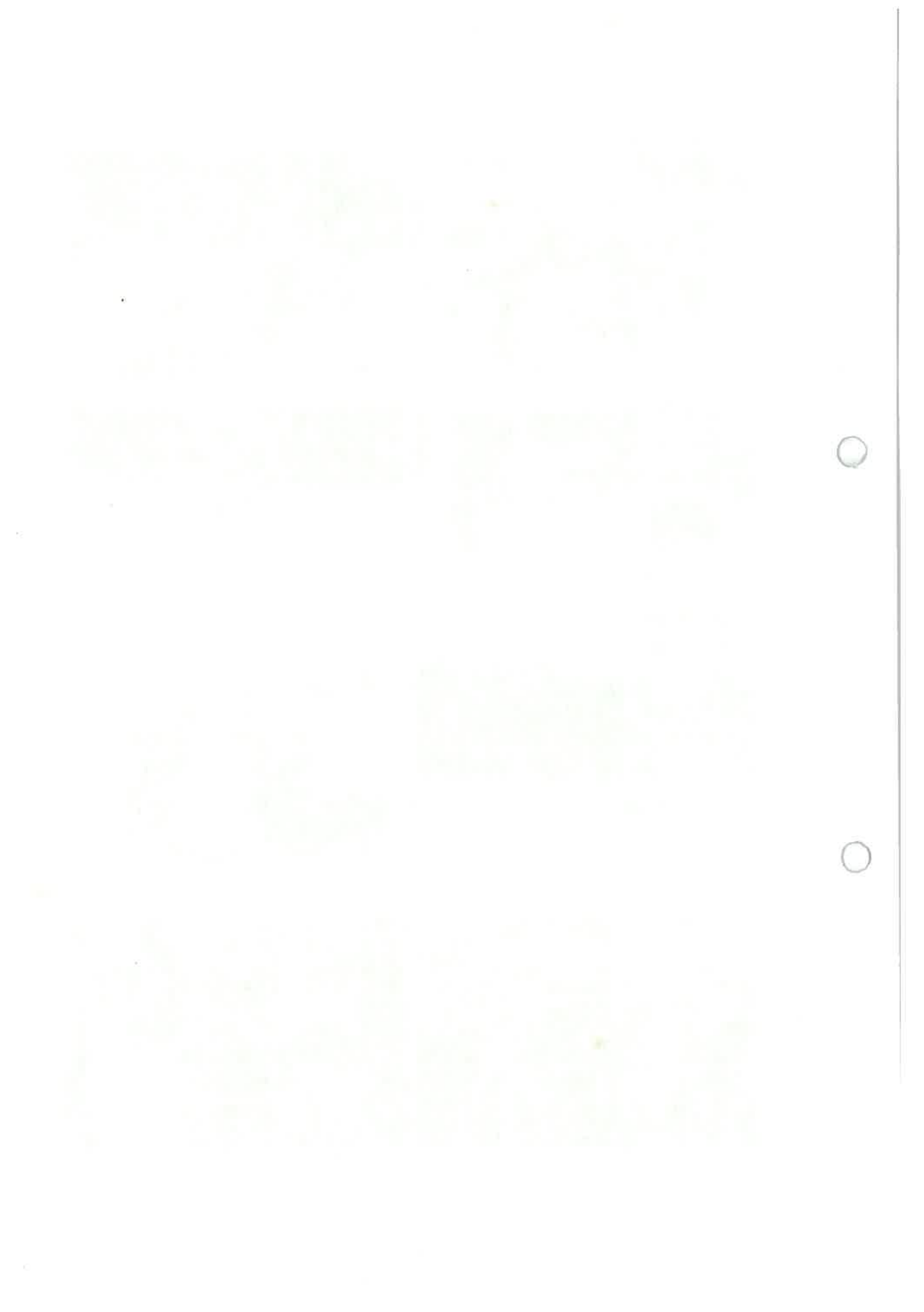


4年授業風景



5年授業風景





2. 教科外体力づくり

業間遊び実施計画案

1, ねらい

- (1) 体力づくり推進活動の一貫として、児童の体力の向上を図る
- (2) 教科体育外の体力づくり活動として、児童主体の遊びを中心に児童が自己の体力に関心を持つようにさせる。

2, 場所

本校体育館・運動場

3, 実施期間

5月～3月

4, 実施方法

- (1) 2校時と3校時の間の休み時間(20分)を利用して行う。
- (2) 1. 2. 3年、4. 5. 6年をプールにしそれぞれの器具や施設をローテーションによって使用する
- (3) 児童が活動をし、ある程度その活動が定着するまで教師も参加するようにする。
- (4) 1. 2. 3年は火曜日と木曜日、4. 5. 6年は水曜日と金曜日に行く。
- (5) 特定の遊びに集中しないように配慮する。
- (6) 器具・施設は現在あるものを利用し必要があれば、修理・購入し利用できるようにしていく。

5, 現在利用できる施設・器具の状況 器具・用具

一輪車	12台	バスケットボール	12個
竹馬	7セット	フラフープ	30本
サッカーボール	14個	卓球セット	
ドッジボール	50個	バドミントンセット	
ながなわ	10本		

固定施設

鉄棒 回転ジャングル 上り棒 ブランコ シーソー

なわとび集会実施計画案

1, ねらい

全校児童が楽しく参加することによって、児童相互のふれあいを深める。

短縄や長縄を利用して色々なとび方で、楽しくとぶことができ、なわとびを通して健康な体をつくる。

記録に挑戦し、友達と一緒に仲よくとぶことが出来る

2, 場所

本校グラウンド

3, 参加者

全児童

4, 種目（なわとびがんばりひょう）を参考。

5, 方法

○土曜日の児童集会の時間（15分）を使う

○月2回行う。（第2、第4土曜日）

○短縄集会、長縄集会と交互に行う。

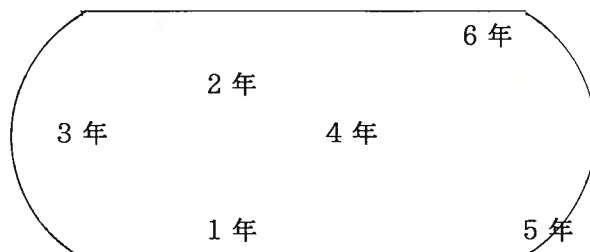
○運営は体育委員会でする。

○全児童に（なわとび頑張り表）を配り記録させる。

○種目や時間は、表をもとにして進める。

○長縄は学校で用意する。

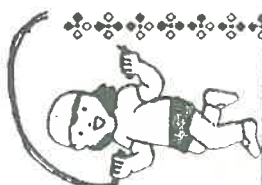
6, 場所の配置





なわとび がんばりひょう

大浜小学校 ねん くみ ばん
なまえ



合格 月日	きやう	きやう 級の内 容	合格 月日	きやう	きやう 級の内 容	合格 月日	きやう	きやう 級の内 容
/	1	片足前まわし 10~19m	/	15	片足前まわし 10~19m	/	29	走りなわとび 150m
/	2	" 20~29	/	16	" 20~29	/	30	グーパーとび 10~19m
/	3	" 30~39	/	17	" 30~39	/	31	" 20~29
/	4	" 40~49	/	18	両足後まわし 10~19	/	32	" 30~39
/	5	" 50~59	/	19	" 20~29	/	33	グーパーとび 10~19
/	6	" 1:00~1:09	/	20	" 30~39	/	34	20~29
/	7	" 1:10~1:19	/	21	前まわしかけ足 10~19	/	35	前まわしとび 10~19
/	8	" 1:20~1:29	/	22	" 20~29	/	36	" 20~29
/	9	" 1:30~1:39	/	23	" 30~39	/	37	" 30~39
/	10	" 1:40~1:49	/	24	後まわしかけ足 10~19	/	38	足うちとび 10~19
/	11	" 1:50~1:59	/	25	" 20~29	/	39	" 20~29
/	12	" 2:00~2:09	/	26	" 30~39	/	40	長はいてとび
/	13	" 2:10~2:19	/	27	走りなわとび 50m	/	41	なはいてとび
/	14	" 2:20~2:29	/	28	" 100m	/	42	手をついて5かいまわる

校内持久走実施計画案

1989年12月13日

1, ねらい

- (1) 本校教育目標「健康で粘り強い子」をもとに、目指す学校像「スポーツいっぱい」の学校経営方針に基づいて行う。
- (2) 持久走をすることにより、強い心身を培い、自信と喜びを持たせる。
- (3) 持久走を通して身体の発育発達や体力の向上を図る。
- (4) 「自分の調子を守って、最後まで完走できるようにする。」

2, 日時

平成1年 12月20日(水)

3, 場所

運動場と学校周囲の道路

4, 参加者

全児童

5, 競技方法

(1) 距離とコース

- | | | |
|-------|---------|---------|
| 1, 2年 | (700m) | 学校の回り1周 |
| 3, 4年 | (1300m) | 学校の回り2周 |
| 5, 6年 | (1900m) | 学校の回り3周 |

- (2) 決勝ゴールは全学年同位置とする。
- (3) 出発の順は、低学年、中学年、高学年の順とする。
- (4) 次の出発は、前学年の終了後とする。
- (5) 記録は5, 6年が行う。

表A

走者	1年	2年	3年	4年	5年	6年
記録	6年	5年	6年	5年	6年	5年

* 前日までに、記録者と記録してもらう児童の顔合わせをする。

(6) 時間とスタート順

9 : 4 5 ~ 1 0 : 1 5	諸注意、記録準備	3 0 分
1 0 : 1 5 ~ 1 0 : 2 5	1 年スタート	1 0 分
1 0 : 3 0 ~ 1 0 : 4 0	2 年スタート	1 0 分
1 0 : 4 5 ~ 1 1 : 0 0	3 年スタート	1 5 分
1 1 : 0 5 ~ 1 1 : 2 0	4 年スタート	1 5 分
1 1 : 2 5 ~ 1 1 : 4 5	5 年スタート	2 0 分
1 1 : 5 0 ~ 1 2 : 1 0	6 年スタート	2 0 分
1 2 : 1 0 ~ 1 2 : 2 5	記録整理、休憩	1 5 分

6, 留意事項

- (1) 最善をつくし、自分の力に合わせて最後まで走れるように指導する。
- (2) 無理な競争心をあおらない。
- (3) 健康診断で異常なもの、気分がすぐれないものは走らせない。
- (4) 走りおえた後、呼吸調整、汗のふき取り、うがいなどを行うことを指導する。
- (5) 当日までに等距離を何度か走らせるよう指導する。
- (6) 授業時数は体育の時間(3)として扱う。
- (7) 許可証は、前日父母に渡し、当日回収する。
- (8) 着替えやタオルの準備をさせる。

7, 各係

係名	担当者	仕事内容
審判		各学年男女3位までの順位判定
記録		各学年男女3位までの記録、記録更新者
時計		タイムの読み上げ、記録の確認
監察		道路の安全確認、車両の誘導
救護		救護

いし がき じま いっ しやう

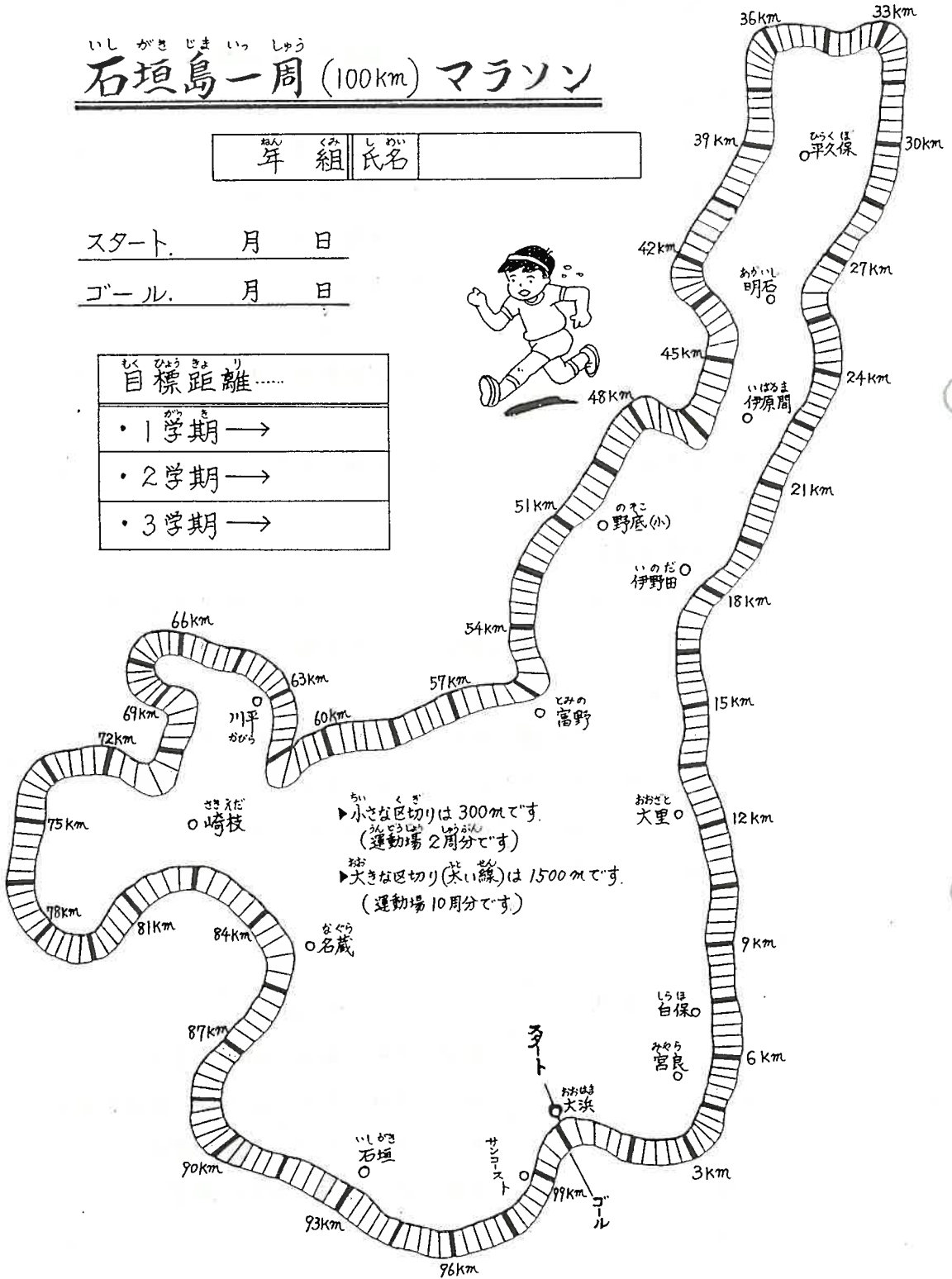
石垣島一周 (100km) マラソン

ねん	くみ	しめい	
年	組	氏名	

スタート. 月 日

ゴール. 月 日

むく	ひやう	きやう	り
目標	距離	……	
• 1学期 →			
• 2学期 →			
• 3学期 →			



▶ 小さな区切りは 300m です。
(運動場 2周分です)

▶ 大きな区切り(太い線)は 1500m です。
(運動場 10周分です)

校内陸上実施計画案

【1】ねらい

- 1, 体育学習の発展として陸上運動を行うことにより技能を高め協力、責任等の望ましい態度を育てる。
- 2, 同学年から縦のつながりへ、交流の枠を広げる機会とする。
- 3, 陸上大会への企画・運営・参加を通して自発性、自主性、リーダー性を育てる。

【2】児童のめあて

【3】日時

平成2年7月6日（金） 9:00～16:00

【4】種目

- 1, トラックの部
 - ① 100M (全員)
 - ② 200M (5.6年男女)
 - ③ 400MR (男女代表各4人)
 - ④ 1000M (男女代表各2人)
 - ⑤ 分会学年別リレー (各学年男女代表各1人)

- 2, フィールド部
 - ① 走り幅跳 (5.6年男女代表各1人)
 - ② 走り高飛び (" ")
 - ③ ソフトボール投げ (" ")

- 3, その他
 - ① 応援合せん (全員)
 - ② なわとび競争 (全員)

【5】服装

体育着・紅白帽・全児童胸に分会マークをつける。

【6】競技方法

- 1, 分会別対抗とし、1分会・高田は同一分会とする。
- 2, 各種目1位～3位、記録更新者、優勝チーム、応援賞には賞状を与える。
- 3, 100Mの組分け方法は1組7名までとする。ただし、同程度の走力の者どうし、及び分会を考慮して組分けするものとする。
- 4, 出場種目は、代表種目3種目までとする。やむを得ない場合は（人数不足）それ以上認める。
- 5, 走高跳での背面とびは認めない。
- 6, 運営委員を組織し、大会の一部運営を行う。（児童会役員、体育委員長）
- 7, 走高跳はセフティーマットをりようし、トラック内で行う。

【7】採点方法

個人1位（3点）	2位（2点）	3位（1点）
団体1位（5点）	2位（4点）	3位（3点）
4位（2点）	5位（1点）	

【8】記録

記録は 100までとる。 例 15” 56

3. 施設・用具部

1. ねらい

体力づくりに適した施設・用具の点検、整備をし、子供たちがいつでもどこでも、安全に楽しく活動できる環境を整える。

2. 方針

- (1) 現在ある施設・遊具を有効に、しかも合理的に活用する。
- (2) 子供たちの生活に定着するように、施設や、用具を工夫し、作成する。
- (3) 施設・用具の安全面に配慮をする。

3. 内容

- (1) 施設・用具の調査研究。購入計画
- (2) 施設・用具の安全点検。
- (3) 学校環境の整備と美化
- (4) 教具についての研究

(1) 本年度は、研究実践を進めていく中で幾多の研究を重ねながら、
以下のような教具を工夫した。

- ①得点板……………校内にある廃材を利用し、作成した。(4台)
- ②作戦盤……………菓子箱を利用して製作。(4個)
- ③ポートボール台…………ベニヤを利用し製作。(2セット)

(2) 施設・用具の安全点検

- (1) 砂場の砂の補充。
- (2) 体育倉庫内部の整理工夫。
- (3) 一輪車の保管工夫。
- (4) シーソーの設置場所の検討。
- (5) ブランコの補修。
- (6) 跳び箱の保管場所の検討。
- (7) 回旋塔のロープ補修

2学期になり、体育館新築工事のため、備品、用具の保管場所に苦慮している。また、バスケットコート、ドッジボールのコート等の設営が早急に必要である。

今年度補修、購入が十分に出来なかったものは、予算との関係も含め今後検討していきたい。

今年はボール運動を中心として考えてきたが、他の領域も含め施設・用具の充実を図っていきたい。

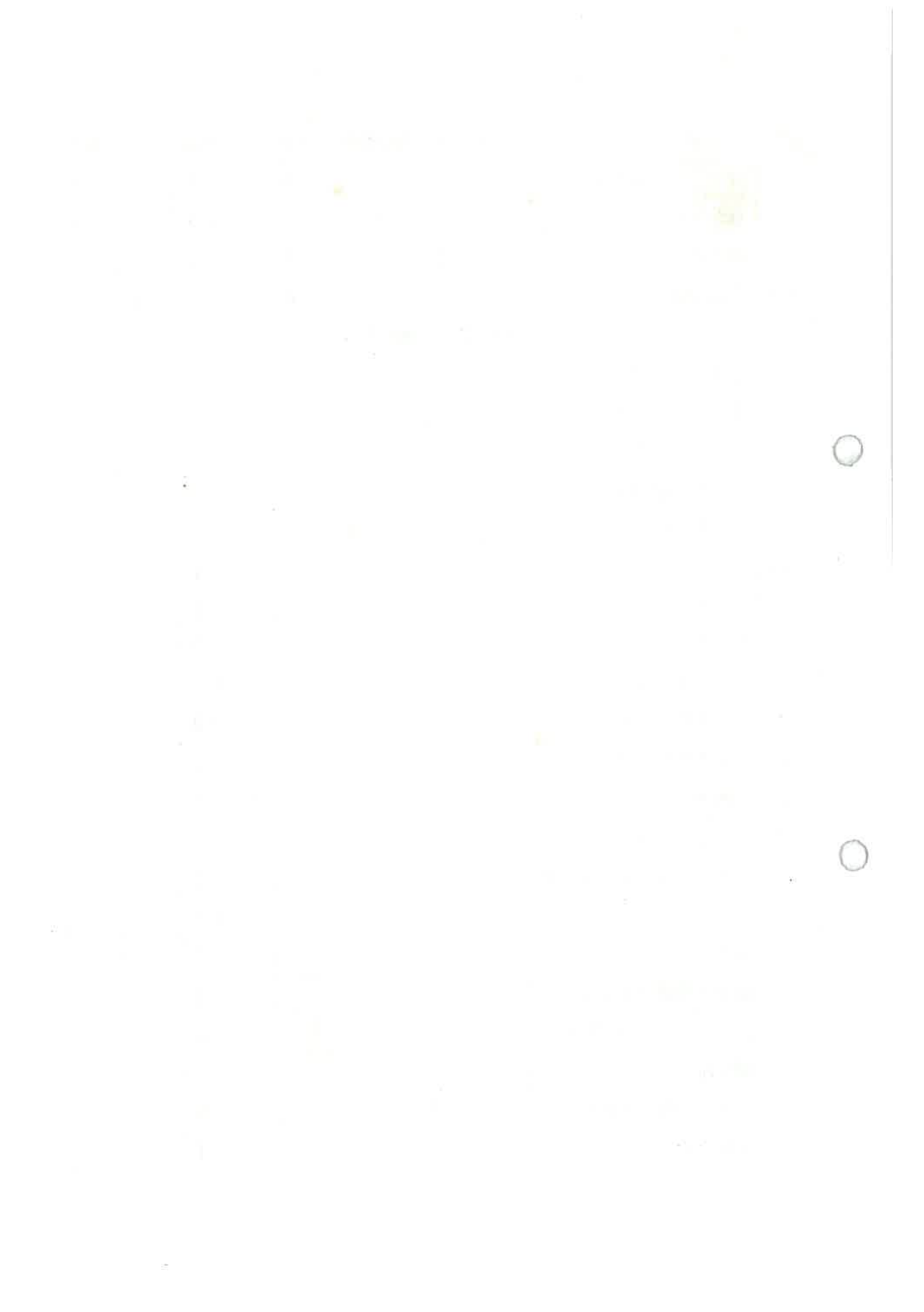
- (3) 備品の調査と購入計画を立てる。
 ※は特に必要とし、早急に購入すべきもの。(備考欄)

施設・用具調べ

番号	品目	基準数量	現有数量(1989)	(1990)	±	備考
1	記録用黒板	2	0	0	-2	※
2	教授用掛け図(体育)	1	0	0	-1	
3	教授用掛け図(保健)	1	0	0	-1	
4	跳び箱	4	5	5	+1	
5	踏み板	4	5	5	+1	
6	踏み切り距離調節器	4	0	0	-4	※
7	マット	8	2	2	-6	※
8	セフティマット	2	1	1	-1	
9	低鉄棒	3	0	0	-3	
10	平均台	3	4	4	+1	
11	タンブリン	4	0	0	-4	※
12	体育用太鼓	2	0	0	-2	※
13	オルガン	1	0	0	-1	
14	ライン引き	3	3	5	+2	
15	信号機	1	0	0	-1	※
16	走り高跳び用スタンド	2	1	1	-1	
17	バトン	12	15	15	+3	
18	ハードル	12	14	14	+2	
19	体操用腰掛け	23	0	0	-23	
20	ソフトボール用具一式	1	0	0	-1	※
21	ホームベース	1	0	0	-1	※
22	塁ベース	1組	0	0	-1	※
23	バックネット	1	0	0	-1	
24	テニスラケット	4	0	0	-4	※

番号	品目	基準数量	現有数量(1989)	(1990)	±	備考
25	テニス用支柱ネット	1	0	0	-1	
26	サッカーゴールポスト	1	0	0	-1	
27	サッカーゴールネット	1	0	0	-1	
28	バスケットゴール	1	0	0	-1	
29	バドミントン一式	2	0	0	-2	※
30	卓球一式	2	0	0	-2	※
31	ポートボール台	4	1	1	-3	※
32	ボール整理かご	3	0	0	-3	※
33	石灰入れ	1	0	0	-1	※
34	昇降運動用踏み台	1	0	0	-1	※
35	体操用棒	45	0	0	-45	※
36	体操用輪	45	45	45	0	
37	ボール投的板	2	0	0	-2	※
38	旗立台	12	0	1	-11	※
39	シャベル	4	0	0	-4	
40	砂ならし	2	0	0	-2	※
41	空気入れ	3	0	0	-3	※
42	長縄	9	13	13	+4	
43	短縄	23	0	0	-23	
44	ビート板	23	0	0	-23	
45	残留塩素測定器	1	0	0	-1	
46	上体そらし測定器	1	0	1	0	
47	体前屈測定器	1	0	1	0	
48	垂直とび測定器	1	0	0	-1	※
49	歩数計	2	0	0	-2	
50	マルチン式人体測定器	1	0	0	-1	

番号	品目	基準数量	現有数量(1989)	(1990)	±	備考
5 1	フリッカー植測定器	1	0	0	-1	※
5 2	肺活量計	1	0	0	-1	※
5 3	握力計	2	0	1	-1	
5 4	背筋力計	1	0	1	0	
△印は基準に無いもの						
△	巻き尺 (30メートル)			1		
△	巻き尺 (50メートル)			1		
△	検尺 (100メートル)			0		
△	逆上がり補助器			0		
△	得点板			0		
△	ストップウォッチ			1		
△	サッカーボール			11		
△	バスケットボール			9		
△	ドッジボール			11		
△	ゲーム用ベスト			20		
△	ジグザグドリブルセット			0		
△	一輪車			23		
△	ソフトボール			6		
△	スターティングブロック			2		
△	コーン			13		
△	竹馬			6		
△	綱引き用縄 (50本)			2		
△	エバーミニポンプDX			0		
△	跳び箱			0		
△	ロイター板 JRV			0		
△	シグナル			1		



4. 調査研究部

陪突册查齋 4

1. ねらい

スポーツテスト、各種の調査を行うことにより、児童の学校、家庭生活の様子や父母の考えかたを知り、体力づくりを推進していくための資料とする。

2. 内容

(1) 児童の体位の調査

(2) スポーツテストの集計と考察

(3) 体育学習についてのアンケート調査

(4) 保健室からの児童の実態調査

(5) 父母の体力づくりに関する意識調査

(1) 児童の体位 (平成2年度調査)

▲・・・国の平均より優位 ●・・・県の平均より優位

体位の県、全国との比較

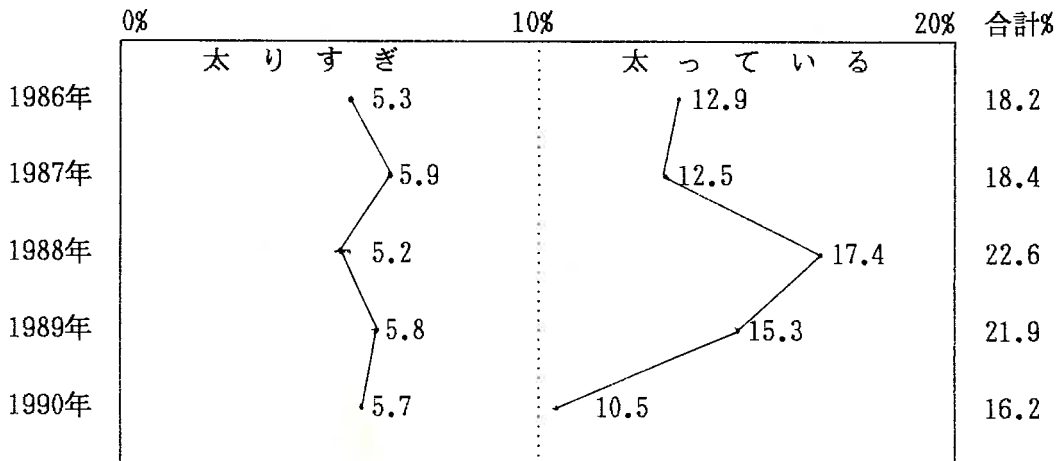
(1989年度文部省保健統計資料)

		男 子					女 子						
		6	7	8	9	10	11	6	7	8	9	10	11
身長	本校	113.9	119.8	125.6	131.4	137.1	141.3	114.7	120.4	125.6	133.2	138.5	145.0
	沖縄	116.0	121.0	125.7	131.7	137.0	143.8	115.9	120.8	126.3	132.8	139.3	145.6
	全国	116.7	122.5	127.9	133.3	138.3	144.3	116.0	121.8	127.3	133.1	139.5	146.1
体重	本校	19.9	23.4	26.9	30.4	35.6	35.7	19.6	24.0	26.2	30.7	35.0	38.3
	沖縄	21.4	23.5	26.8	29.7	33.1	38.0	20.8	23.1	25.9	30.0	34.3	39.1
	全国	21.5	24.0	27.0	30.3	33.7	37.6	21.0	23.6	26.4	29.8	33.9	38.7
胸囲	本校	57.4	59.8	63.1	65.8	71.3	70.5	56.9	60.0	61.9	65.3	69.7	71.2
	沖縄	57.9	59.7	62.4	64.5	66.9	70.3	56.4	58.3	60.4	63.8	67.5	71.4
	全国	58.0	60.2	62.5	65.2	67.7	70.5	56.6	58.8	61.2	63.9	67.2	71.1
座位高	本校	63.4	67.0	70.0	72.2	74.9	76.1	64.2	67.4	69.8	73.7	76.0	78.8
	沖縄	65.3	67.9	70.3	72.7	74.8	77.3	64.9	67.5	70.0	72.6	75.6	78.8
	全国	65.3	67.9	70.3	72.7	74.8	77.3	64.9	67.5	70.0	72.6	75.6	78.8

・ 全体的に見て本校の体重、胸囲、胸囲は全国平均より上まわっている。

(1) 肥満児の推移

(2)



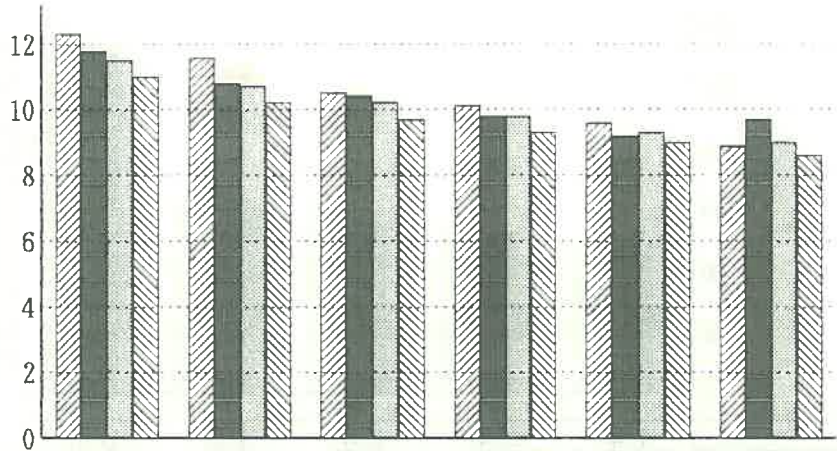
・ 昨年に比べると人数的には減少しているが、肥満度の高いものが増えている。

(2) 体力の統計

50m走(秒) 男子

県 1988年度、全国 1987年度資料

本校(昨年) 本校(本年) 県 全国

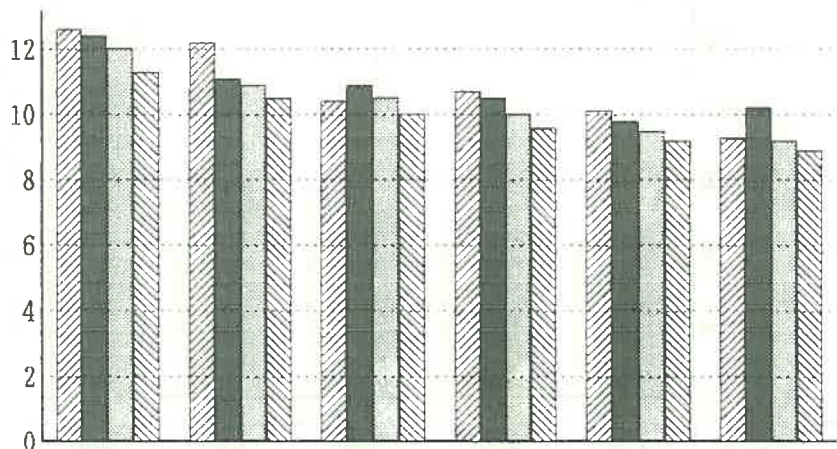


	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校(昨年)	12.3	11.6	10.5	10.1	9.6	8.9
本校(本年)	11.8	10.8	10.4	9.8	9.2	9.7
県	11.5	10.7	10.2	9.8	9.3	9.2
全国	11.0	10.2	9.7	9.3	9.0	8.6

50m走(秒) 女子

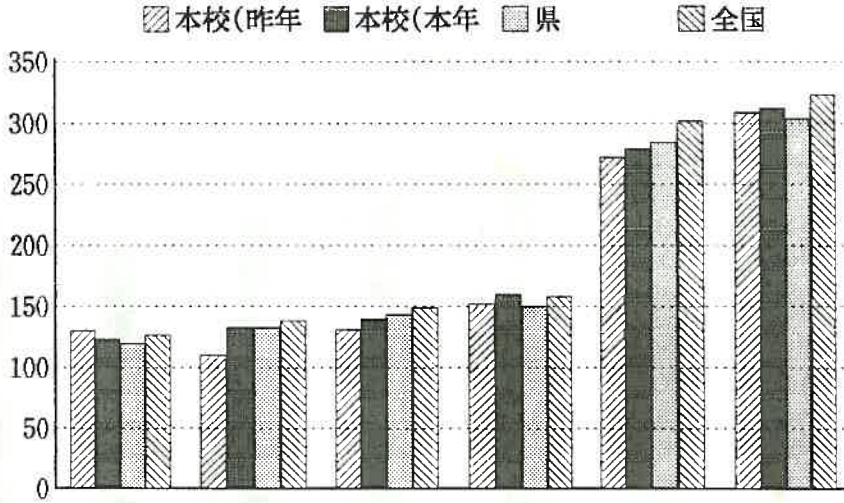
県 1988年度、全国 1987年度資料

本校(昨年) 本校(本年) 県 全国



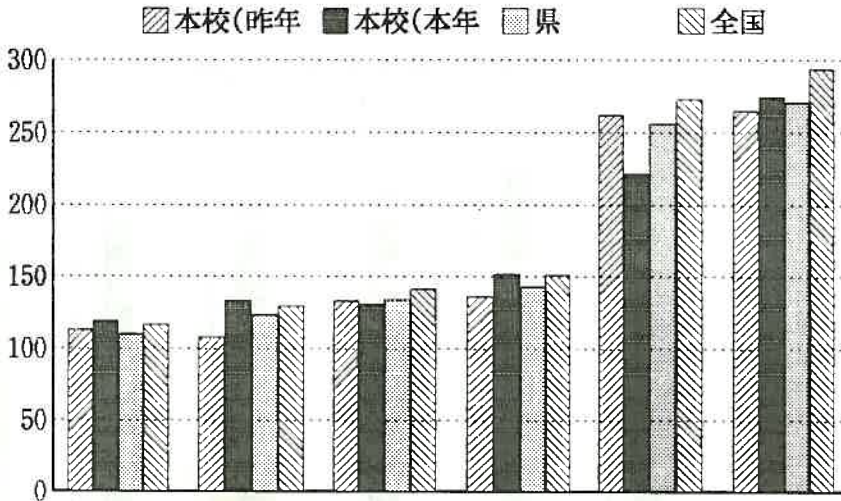
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校(昨年)	12.6	12.2	10.4	10.7	10.1	9.3
本校(本年)	12.4	11.1	10.3	10.5	9.8	10.2
県	12.0	10.9	10.5	10.0	9.5	9.2
全国	11.3	10.5	10.0	9.6	9.2	8.9

立ち巾とび (cm) 男子
 県 1988年度、全国 1987年度資料



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校(昨年)	130	110	131	152	272	309
本校(本年)	123	133	140	160	279	313
県	119.4	132.8	143.2	150.8	284.9	304.2
全国	126.5	138.4	149.4	158.4	301.8	323.5

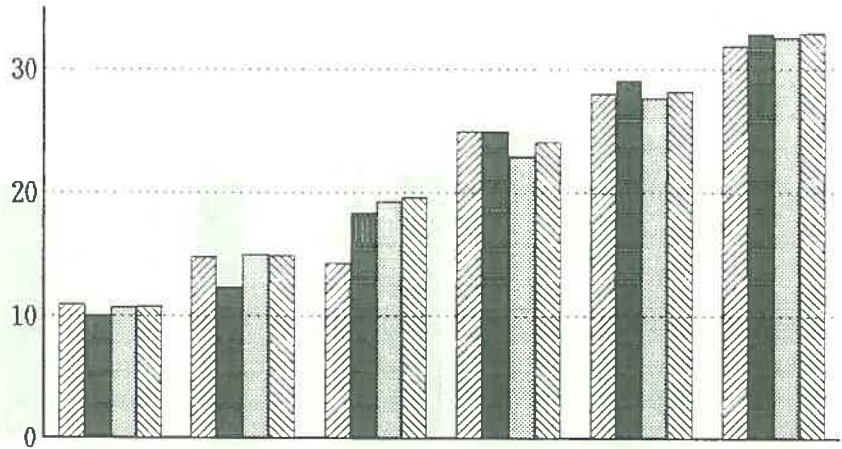
立ち巾とび (cm) 女子
 県 1988年度、全国 1987年度資料



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校(昨年)	113	108	133	136	262.5	265
本校(本年)	119.4	133	130.6	152	222.3	275
県	110.2	123.8	133.8	142.8	256.0	271.0
全国	116.5	129.8	141.5	151.0	273.4	293.7

ソフトボール投げ(m)男子
 県 1988年度、全国 1987年度資料

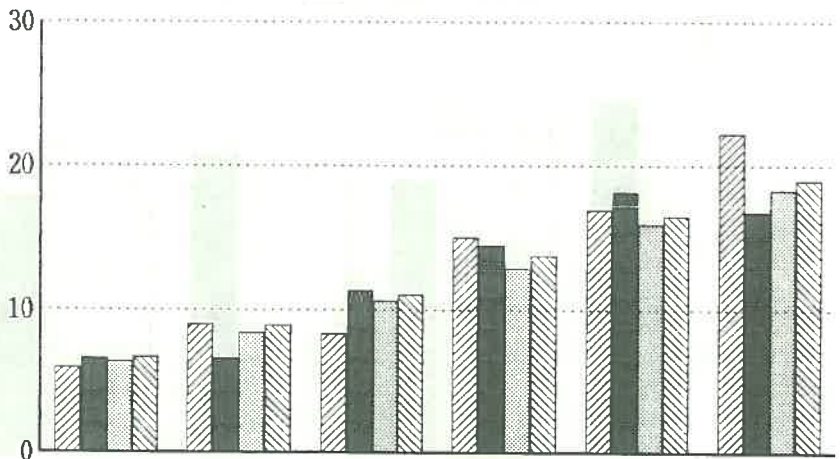
本校(昨年) 本校(本年) 県 全国



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校(昨年)	11	14.8	14.3	25	28	31.9
本校(本年)	10	12.4	18.4	25	29.1	32.8
県	10.7	15.0	19.3	22.9	27.7	32.6
全国	10.8	14.9	19.6	24.1	28.2	32.9

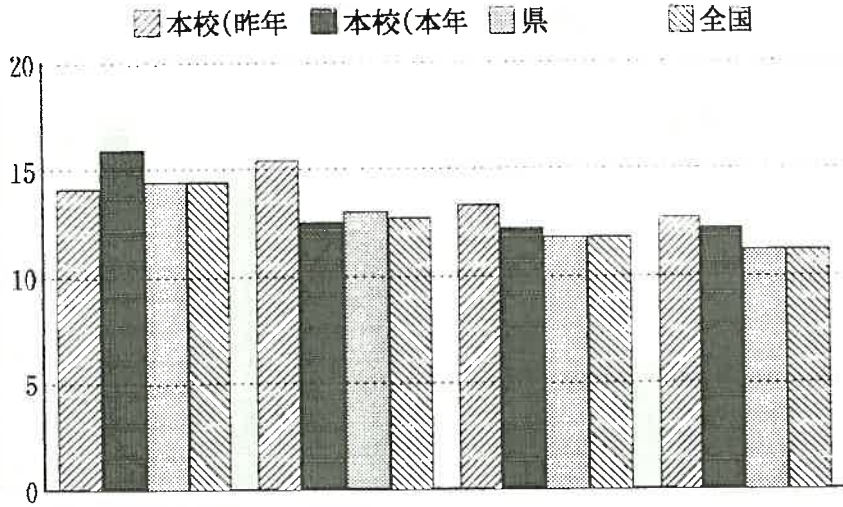
ソフトボール投げ(m)女子
 県 1988年度、全国 1987年度資料

本校(昨年) 本校(本年) 県 全国



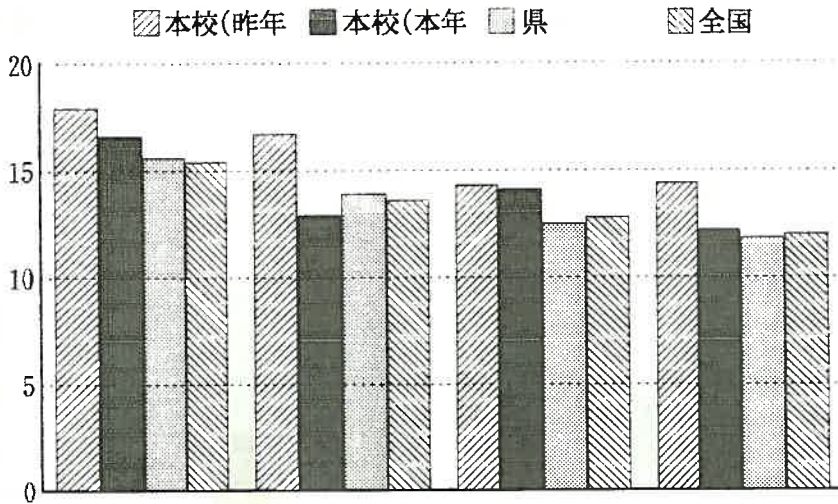
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校(昨年)	5.9	9	8.3	15	17	22.3
本校(本年)	6.6	6.6	11.4	14.5	18.2	16.8
県	6.4	8.4	10.6	12.9	16.0	18.3
全国	6.7	8.9	11.1	13.8	16.5	19.0

飛び越しくぐり(秒)男子
 県 1988年度、全国 1987年度資料



	1年	2年	3年	4年
本校(昨年)	14.1	15.4	13.3	12.7
本校(本年)	15.9	12.5	12.2	12.2
県	14.4	13.0	11.8	11.2
全国	14.4	12.7	11.8	11.2

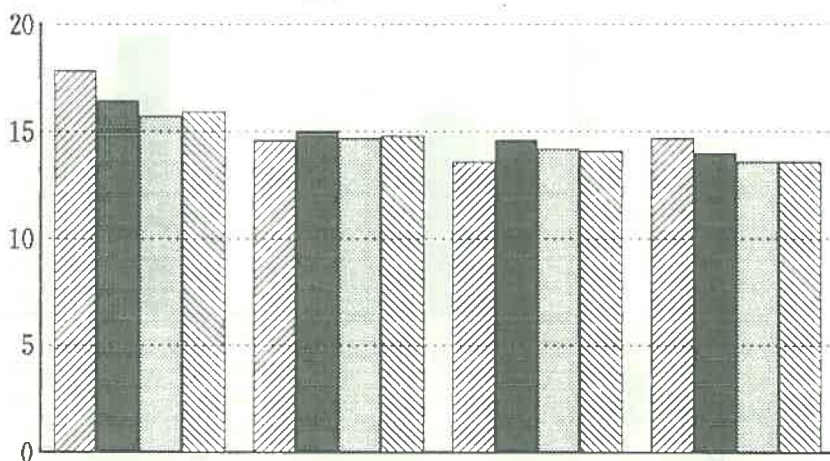
飛び越しくぐり(秒)女子
 県 1988年度、全国 1987年度資料



	1年	2年	3年	4年
本校(昨年)	17.9	16.7	14.3	14.4
本校(本年)	16.6	12.9	14.1	12.2
県	15.6	13.9	12.5	11.8
全国	15.4	13.6	12.8	12.0

持ち運び走（秒）男子
 県 1988年度、全国 1987年度資料

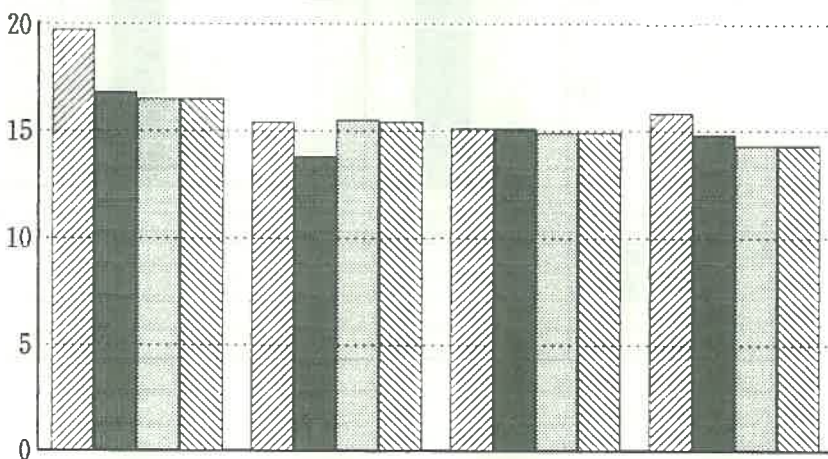
本校(昨年) 本校(本年) 県 全国



	1年	2年	3年	4年
本校(昨年)	17.8	14.6	13.6	14.7
本校(本年)	16.4	15.0	14.6	14.0
県	15.7	14.7	14.2	13.6
全国	15.9	14.8	14.1	13.6

持ち運び走（秒）女子
 県 1988年度、全国 1987年度資料

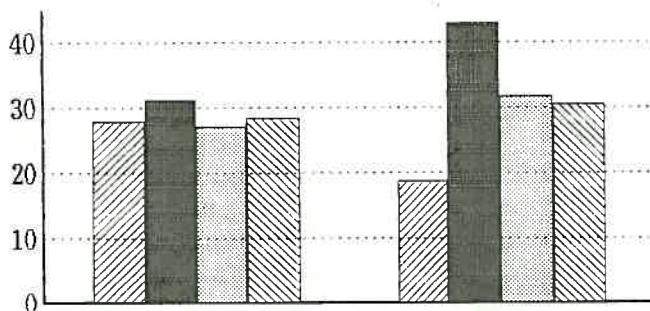
本校(昨年) 本校(本年) 県 全国



	1年	2年	3年	4年
本校(昨年)	19.7	15.4	15.1	15.8
本校(本年)	16.8	13.8	15.1	14.8
県	16.5	15.5	14.9	14.3
全国	16.5	15.4	14.9	14.3

けん垂(回)男子
 県 1988年度、全国 1987年度資料

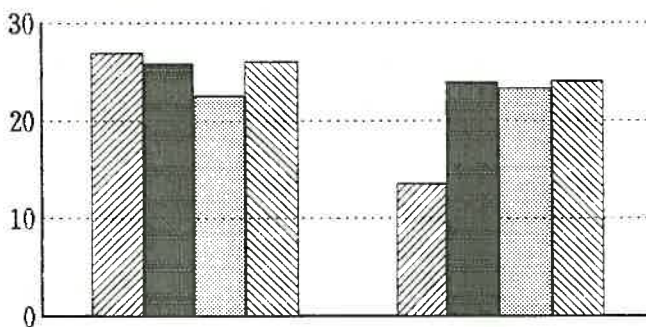
■本校(昨年) ■本校(本年) ■県 ■全国



	5年	6年
本校(昨年)	28.0	18.8
本校(本年)	31.3	43.0
県	27.1	31.8
全国	28.4	30.5

けん垂(回)女子
 県 1988年度、全国 1987年度資料

■本校(昨年) ■本校(本年) ■県 ■全国

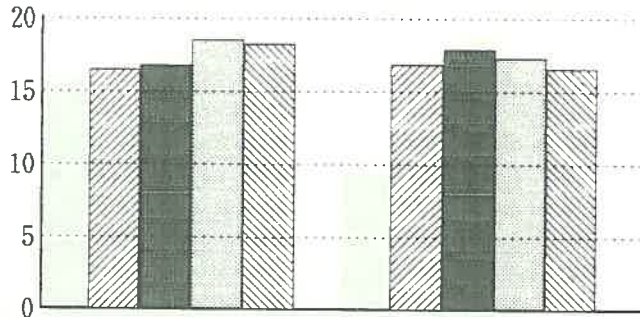


	5年	6年
本校(昨年)	27.0	13.6
本校(本年)	25.9	24.0
県	22.6	23.4
全国	26.1	24.1

ジグザグドリブル（秒）男子

県 1988年度、全国1987年度

本校（昨年） 本校（本年） 県 全国

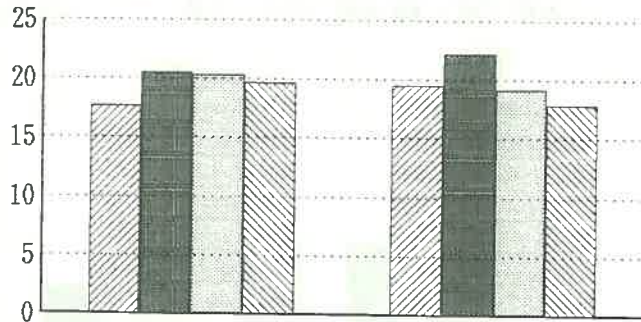


	5年	6年
本校（昨年）	16.5	16.9
本校（本年）	16.8	17.9
県	18.6	17.3
全国	18.3	16.6

ジグザグドリブル（秒）女子

県 1988年度、全国1987年度

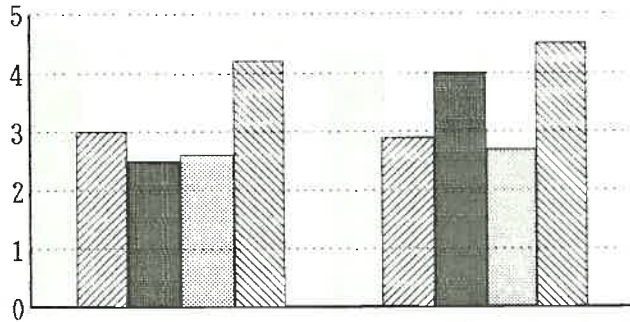
本校（昨年） 本校（本年） 県 全国



	5年	6年
本校（昨年）	17.7	19.5
本校（本年）	20.5	22.2
県	20.3	19.1
全国	19.7	17.9

連続さか上がり(回) 男子
 県 1988年度、全国1987年度資料

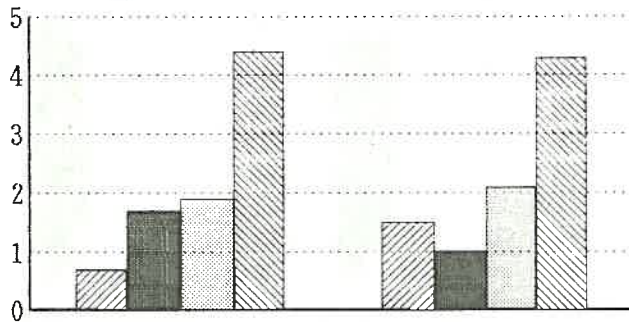
■本校(昨) ■本校(今) □県 ▨全国



	5年	6年
本校(昨)	3.0	2.9
本校(今)	2.5	4.0
県	2.6	2.7
全国	4.2	4.5

連続さか上がり(回) 女子
 県 1988年度、全国1987年度資料

■本校(昨) ■本校(今) □県 ▨全国



	5年	6年
本校(昨)	0.7	1.5
本校(今)	1.7	1.0
県	1.9	2.1
全国	4.4	4.3

(3) 保健室からの児童の実態
保健室利用状況 (1990年4月~10月)

① 内科的来室者状況 (数字は人数)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	合計
頭痛	10	15	4	5	2	11	47
腹痛	5		2	2	1		10
貧血	1	4		3	4		12
気分不快	2	4	4		3	8	21
嘔吐			1				1
その他		1	1			1	3
合計	18	24	12	10	9	20	94

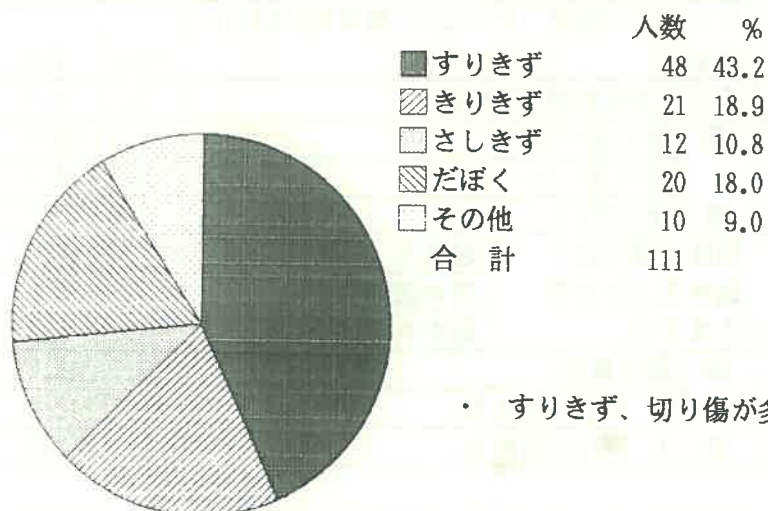
- ・ 頭痛、気分不快、貧血の順になっている。
- ・ 全校集会時における貧血が目立つ。
- ・ 5月の連休の後に体調をくずす者が多かった。

参考 貧血検査結果

- ・ よい傾向にある。

	要食事指導	要治療	合計
1989年	4.5%	0.5%	5.0%
1988年	1.3%	0.6%	1.9%
1990年	1.1%	0.3%	1.4%

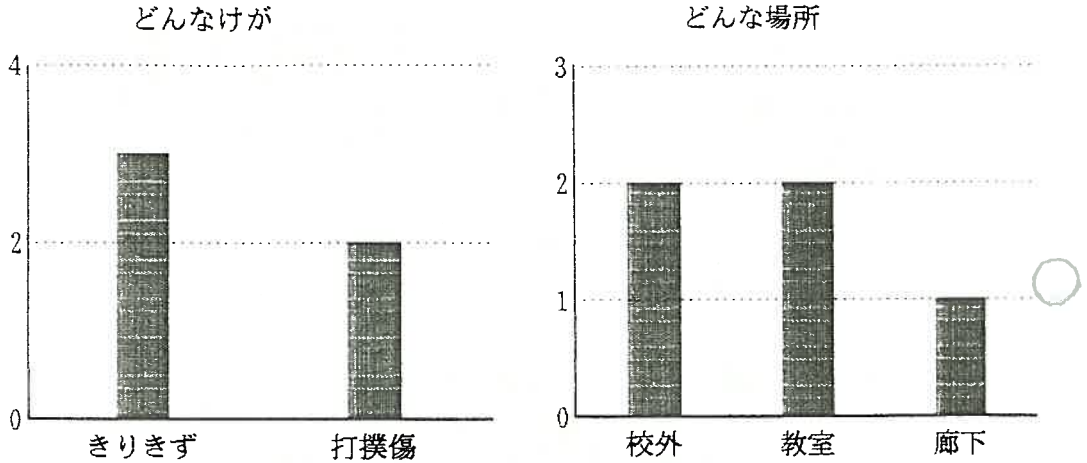
② 外科的来室者状況



- ・ すりきず、切り傷が多い。

事故発生状況（病院で診察を受けたもの 5件）

体のバランスをくずして頭部や足をけがしたものの3件、ガラスを蹴ってのけが1件、ハサミのいたずら1件であった。



健康診断前保健調査より（1990年5月実施）

回収人数 324（91.8%）

数字は%

項	目	低	中	高	合計
1	からだがだるいと訴えることがありますか。	5.8	7.1	9.8	7.4
2	頭痛をよく訴えますか。	2.5	6.3	3.3	4.0
3	腹痛をよく訴えますか。	8.3	7.1	7.6	7.7
4	アレルギー(喘息、アトピー、鼻炎等)がありますか。	11.7	4.5	5.4	7.4
5	歯ぐきから血がでますか。	7.5	8.9	15.2	10.2
6	朝 毎日食べる	84.2	69.6	73.9	76.2
	時々食べない	15.0	18.8	22.8	18.5
	食 食べない	0.8	2.7	1.1	1.5
7	朝は気持ちよく起きる	57.5	58.0	57.6	57.7
	起きることができ時々起きれない	27.5	31.3	32.6	30.2
	起きることができ起きれない	14.2	6.3	7.6	9.6
8	排 毎日ある。	46.7	48.2	32.6	43.2
	2、3日に1回ある。	40.0	42.9	62.0	47.2
	便 4、5日に1回ある。	4.2	2.7	5.4	4.0

- ・ 高学年につれて、頭痛、腹痛等の不定愁訴を訴える者が多い。
- ・ 近年、アレルギー性疾患が目立ってきている。
- ・ 約10人に1人、歯ぐきの出血がある。（歯肉炎の増加）

Ⅲ 研究のまとめ

1. 研究のまとめ

平成元年度より体力づくり推進校の指定を受け、「一人ひとりがめあてを持ち、自ら取り組む体力づくり」を主題にかかげ、一年次は「器械運動」の領域を通して、理論、研究の方向、研究体制づくり等を中心にし、授業実践を含めて研究に取り組んできた。

二年次の今年は、領域を「ボール運動」とし、「新しい体育」の理論研究を基に、単元構成、場の設定、特性を生かすための工夫、めあての持たせ方等、昨年度の課題も含め全職員協力のもと研究を進めてきた。

試行錯誤しながら進めてきた研究ではあるが、「新しい体育」についての理論研究を深める事により、教師・児童とも学習形態になれ、効果的な授業が進められるようになった。また、体力及び運動能力テストなどからの実態把握により、研究を進めていく上での資料として活用された。更に、施設・用具の購入、修理など一応の成果はあったものと思う。

しかし、研究を進めていく中で、昨年にも増して課題が次々と出、やるべきことが山積している。

学力と体力の相関関係についても研究を進めていく計画であるが、今年は取組みが浅く、発表する段階には到っていない。

こうした事も含め、以下に挙げられる課題を解決すべく、次年度は更に研究を深めていきたい。

2. 今後の課題

- (1) 自己の能力を高めるためのめあてをどう持たせるか。
- (2) 教師の意図することを子供のめあての中にどう生かしていくか。
- (3) アンケート調査の結果をどのように活用していくか。
- (4) 業間遊び、なわとび集会等教科外活動（特別活動）と体力づくりの関わりをどう研究していくか。
- (5) 自己の体力を高めるための用具の活用のさせ方。
- (6) 到達目標設定（めやす）の方法及び活用の仕方。

参考文献、資料

文部省

竹之下 休蔵・宇土 正彦

宇土 正彦

松田 岩男・宇土 正彦

高畑 栄一

三浦 勇

沖縄県教育委員会

教育開発研究所

青山 昌二・嘉戸 儼

宇土 正彦・嘉戸 儼

杉山 重利・細江 文利

「小学校指導書・体育編」

「小学校体育の学習と指導」

「小学校 新しい体育の考え方・進め方」

「学校体育ハンドブック」

「体育の学習 指導書」 1年～6年

「現代学校体育大事典」

「月間学校体育」

「小学校体育の課題 100のQ&A」

「学校における体力づくりの全体構想」

「体力づくり読本」

「運動能力テスト・スポーツテスト
ハンドブック」

「新しい体育授業の展開」

総説・1年～6年

平成2年度職員名

校長	前 津 栄 信	教諭	徳 山 明 美
教頭	波照間 永 晃		前 津 信 子
教諭	平 地 三千裕		金 嶺 秀 子
	新 本 タツミ		登野城 紀 子
	嘉弥真 マ サ		成 底 いと子
	佐久本 茂 樹	養護教諭	当 山 幸 江
	漢 那 憲 吉	図書司書	本 仲 征 子
	小 成 初	事務主事	仲 皿 勝
	長 浜 明 美	用務	米 盛 勝 子
	与那国 久 枝		
	大 城 照 美		



